

(令和6年度)

第63回 山形県少年の主張大会記録集

～いま伝えたい私のメッセージ～

(付 防犯広報作品コンクール入賞者名簿)

第63回 山形県少年の主張大会

～いま伝えたい私のメッセージ～

主催 / 山形県防犯協会連合会、山形県青少年育成県民会議、山形新聞、山形放送



公益社団法人 山形県防犯協会連合会
山形県青少年育成県民会議
株式会社 山形新聞社
山形放送株式会社
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

はじめに

第六十三回「山形県少年の主張大会」の開催に当たり、山形新聞社、山形放送、山形県防犯協会連合会、当山形県青少年育成県民会議の本大会主催者四社を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

本日の大会に出場される十五名の中学生の皆さん、誠におめでとうございます。

皆さんは、県内の全ての中学校から百十七名が出場した地区大会を勝ち抜き、さらに、ブロック大会を経て、本日の出場を手にされました。

その間の皆さんの御努力に、心より、感謝を申し上げます。

この主張大会は、次代を担う皆さんが、心身ともに健康で、思いやりの心を持ち、社会で自立していけるよう、その健やかな成長を願って、昭和三十七年に始まり、本日で六十三回目を迎える全国でも歴史のある大会です。

これまで、この壇上に立って来られた先輩中学生の皆さんは、家族や友人、あるいは地域社会と向き合って得られた命の尊さ、絆の大切さ、将来の夢などについて、ハツラツとした発表をなされ、多くの山形県民に深い感銘を与えてきました。

本日、皆さんからは、家庭や学校生活、あるいは地域の一員として、学び考えたこと、心に思ったことなどを、自分の言葉で、自信を持って、堂々と発表していただきたいと思っています。

皆さんの熱いフレッシュなメッセージが、この会場だけでなく、新聞やラジオを通して、より多くの方々に深い感動を与えるとともに、大人が中学生をより深く理解する機会にもなると信じております。

また、昨年続き、大会の模様を録画し、YouTubeで動画配信することといたしました。是非、新聞、ラジオと合わせて、ご覧いただければ幸いです。

終わりになりますが、本日出場される中学生の皆さんが、この発表の経験を基に、それぞれの将来に向けて、大きく飛躍されることを御期待申し上げますとともに、本日、会場にお越し頂いた皆様並びに本大会の運営に御尽力いただいた関係者の皆様に御礼を申し上げます、私の挨拶といたします。

山形県青少年育成県民会議

会長 柿崎 則夫



主催者代表の挨拶



発表の様子



表彰式



入賞者

もくじ

はじめに	1	
大会の様子	2	
最優秀 障害を乗り越えて	6	
〔第四十六回少年の主張全国大会 審査委員会委員長賞〕		
優秀 経験がもたらしてくるもの	8	
優秀 世代を超えたメッセージ	10	
優良 違いが輝く社会に	12	
優良 私がうまれてきた意味	14	
あなたが笑顔になれる場所	16	
地域を守るとは	18	
追い続ける	20	
仲間とつくる	22	
家族の笑顔を守りたい―消防士を目指す私の想い―	24	
『当たり前』の日々	26	
フラワーアーチを超えて	28	
部活動の大切さ	30	
成功の第一歩	32	
他者の心を思いやる	34	
白鷹町立白鷹中学校	三年 井上 愛奈	2
庄内町立立川中学校	三年 齋藤 未旺	6
山形大学附属中学校	三年 神尾 航成	8
米沢市立第一中学校	三年 和地 葵羽	10
酒田市立東部中学校	三年 齊藤 茉夏花	12
山形市立第二中学校	三年 鈴木 玲奈	14
山形市立高楯中学校	三年 佐藤 瑠海	16
河北町立河北中学校	三年 高木 咲楽	18
新庄市立萩野学園	九年 廣野 一花	20
南陽市立宮内中学校	三年 加藤 朱葵	22
酒田市立第二中学校	三年 佐藤 千華	24
最上町立最上中学校	三年 大場 柚葵	26
上山市立北中学校	二年 矢吹 心春	28
尾花沢市立尾花沢中学校	三年 三坂 明日樂	30
山形市立第七中学校	三年 三瓶 生悟	32

第四十六回少年の主張全国大会

内閣総理大臣賞 一隅を照らす

文部科学大臣賞 大切な家族

国立青少年教育振興機構理事長賞 ついでにしているだけ

審査委員会委員長賞 「じゃない方」になつて気づいたこと

第六十三回山形県少年の主張大会開催要綱

大会次第

審査委員

県大会歴代入賞者名簿

全国大会歴代入賞者名簿

防犯広報作品コンクール入賞者名簿

宮城県栗原市立栗原南中学校 三年 ケイバージーバ

千葉県長生村立長生中学校 一年 松原蒼天

熊本県熊本市立鹿南中学校 三年 友枝紗寧

愛知県西尾市立鶴城中学校 三年 村木新

36
37
38
39
40
45
45
46
55
56

最優秀

〔第四十六回少年の主張全国大会〕
審査委員会委員長賞受賞

障害を乗り越えて



山形県白鷹町立白鷹中学校 三年

井上愛奈

「始め」という審判の声は聞こえません。面をつけると、私の世界は静寂に包まれます。相手の立ち上がる動作が、私にとっての試合開始の合図です。

「先天性難聴障害」、私が生まれつき抱える障害です。母が言うには、耳の中にある毛が普通の人より短く、音を聞き取ることができない障害だそうです。人工内耳を使えば、話している音は聞こえるので、小さい頃は不自由を感じることありませんでした。

私が初めてこの障害を意識したのは、小学生の頃でした。水泳大会の時、先生の鳴らすブザーの音に合わせ、周りの子たちが泳ぎ始める中、私はスタートすることができず、取り残されてしまいました。キョロキョロと周りを見て、数秒遅れてスタートした自分に気付いた時、「耳が聞こえないことは不便なんだ」という

思いが頭に浮かんできました。

その日を境に、日常の様々なことが気になって仕方なくなりました。思えば、聞こえていないのに、聞こえているふりをする。それがきっかけで友達とすれ違ったり喧嘩になったりすること。私の中で、当たり前前になっていたことだけれど、「普通」はこんなことにならないんじゃないか。どうして自分だけこんな思いをしなければならぬのだろうという思いは、一度湧き上がってくる。もう止めることができませんでした。

剣道に出会ったのはそんな時のことでした。中学校に入学してすぐの部活動紹介で、竹刀を自分の体のように使いこなしながら戦う先輩の姿を見て、「私もこんな風になりたい」と思ったことがきっかけです。

母やお医者様からは、「面をつけると人工内耳を外さないといけない。無音の状態であるのは危険じゃないか。」と心配されましたが、「それでもやってみよう」「今のこの気持ちを大切にしたい」という私の思いを尊重してくれました。

剣道を始めてしばらくは、苦勞の連続でした。聞こえないことで、監督の細かい指示が分からず、その場で止まってしまうことが、わかってはいたけれど、苦しかったです。

しかし、そんな時はいつも部活の仲間たちが身振り手振りで次にやることを示してくれたり、休憩時間に監督の言ったことを教

えてくれたりしました。監督やコーチも、紙やスマホにアドバイスを示してくれるなど、私のために工夫をしてくれました。耳が聞こえないからといって、変に気を遣わず、他の仲間と同じように厳しい言葉、前向きな言葉をかけてくれました。手話とも違う、剣道部の中だけで伝わるジェスチャーがとても心地よかったです。私も、わからないことは受け身にならず、唇を見たり、人工内耳を付けてから聞きにいたりして、私の方から積極的な姿勢を持つように変わっていきました。

中学校最後の大会。個人戦決勝。私の竹刀が、相手の胴を捉えました。審判の声は聞こえません。それでも、狭い視界の端で見える応援してくれている仲間たちの、嬉しそうな表情や飛び上がるような動作が、私の一本を物語っていました。そう、聞こえなくても、伝わっています。あの時、勇気を出して剣道に挑戦してよかった。心からそう思いました。

「ないものはない。あるものはある。今自分が持っているものを大切に。」指導者の方が教えてくれた言葉です。今、私が持っているものは、障害があっても、それを乗り越え、挑戦する勇気です。

勇気を出して挑戦すれば、必ず自分を応援してくれる人、支えてくれる人がいます。そういう人たちの気持ちに答え、報いることが私にできることです。だから、これからも多くのことに挑戦します。私にとって、挑戦することは、感謝を示すことだから。



優 秀

経験がもたらしてくるもの



庄内町立立川中学校 三年

齋藤未旺

皆さんは自分のことが好きですか？自分のことを大切にできているでしょうか。私はどうしても自分のことを好きになることができません。

私は生まれて間もなく大きな病気にかかり、臓器移植を含めた計四回の手術を乗り越え、なんとか一命をとりとめました。小さい頃は怖いものなんて何もなく、優しく温かい家族と一緒に楽しく過ごしていました。

小学校に入り、私はいじめにあいました。おなかの手術あとを笑われ、悪口をたくさん言われました。それは辛く、悲しい日々でした。なんで私ばかり、と怒りが爆発し、人を憎み、今度は自分も人をいじめる側にもなりました。

そんな最低な人間を誰も好きになるわけがなく、私は一人ぼっ

ちになりました。他の人たちは休み時間になるとにこにこしながら遊びに行っていました。私は一人教室で絵を描いていました。もちろん見てくれる人もほめてくれる人もいません。涙で歪んだ視界の中、ただ色鉛筆を動かすしかありませんでした。自分のしてしまったことを悔みました。心配してくれた家族の手すらも振り払いました。もうずっとこのままなら、いつそ消えてしまいたいと思ったこともありました。

そんなある日のことです。

「ねえ、一緒に遊ぼうよ！」

一人の女の子が私に声をかけてくれたのです。初めはびっくりして、声をかけられたのは私ではないのでは、と思いました。でも、彼女は間違いなく、私を見て誘ってくれていたのです。

その日から私の毎日のがらりと変わりました。その子だけでなく、今まで苦手だと思っていた人、今まで話したことがなかった人とも一緒に楽しく遊べるようになっていきました。みんな優しく、私を受け入れてくれました。私はもう一人ぼっちなんかではない！私の日常は、灰色の世界から、いつきに色鮮やかな明るい世界へと変わっていきました。

あれからずいぶんの時がたちました。楽しかったことも苦しかったこともすべて乗り越えてきました。振り向けばどんな時も私を受け入れてくれる親友がいます。あのときの自分には想像もつかなかった色鮮やかな世界が今も広がっています。しかし、ふ

と思ってしまうのです。「本当は友達だなんて思われていないのではないか」「私なんていなくてもみんなは楽しく過ごせるのではないか」。私は自分に自信がありません。自分の容姿にもコンプレックスを抱いています。

SNSを開けば、たくさんの人が投稿した動画を見ることができます。容姿のきれいな人にはたくさんのフォロワーと「いいね」がつかめます。しかしアンチコメントをつけられてしまう人、きれいな人に憧れて過度に自分を追いつめてしまう人もいるということを知りました。しかしそんな世界でも自分の好きなことを曲げず、前を向いている人、どんなに批判されても諦めずに進んでいる人がいます。人の目や評価だけを自分の物差しにしている以上、自分らしくは生きられないのではないか、私はそう思うようになってきました。

私は今も人の目や評価を気にします。不安もコンプレックスもそう簡単には消すことはできません。しかし、そんな自信のない自分も気が弱い自分も認められるようになりたいです。そして自分の物差しを持って生きていこうと思います。幼い頃、多くの方々の尽力でとりとめたこの命を、自分らしく輝かせたいです。たくさんの大切なことを教えてくれたこの経験に感謝していきたいです。そしていつの日か自信をもって自分を好きになれる日を迎えたいと思います。



優 秀

世代を超えたメッセージ



山形大学附属中学校 三年

神 尾 航 成

「老害」みなさんはこの言葉を聞いたことがあるでしょうか。本来の意味は「自分が老いたのに気づかず、まわりの若者の活躍を妨げる理不尽な言動」です。しかし今は本来の意味から離れ、少しでも気に入らなければ、「なんか怒られたんだけど、あいつ老害じゃね？」世界で最も高齢化が進む日本で、この言葉が浸透してしまいました。

私の祖父母はとても優しいです。普段は離れて暮らしていますが、祖父母の家を訪れるたびに「よく来たの」「また大きくなったの」と、あたたかく迎えてくれます。そんな優しい祖父母の姿を見ていると、高齢者の方を悪く言うような「老害」という言葉に、平然とその言葉を使う人たちに違和感を覚えてしまうのです。

私は小学校の頃に野球のクラブに所属していました。総監督は

少し年配の方で、練習や試合中に大声で熱く指導してくださいました。

「声を出せ！」

「腰を落とせ！」

「挨拶するときは帽子を取れ！」

練習場では毎回のように総監督の声が響き渡っていました。しかし、その熱い指導への緊張と失敗への不安を覚えてしまい、私はついに、練習から逃げ出してしまいました。総監督が怖かったのです。しかし、その印象を変える出来事がありました。

私は小学校六年生となり、チームではキャプテンを務めていました。キャプテンは練習前に総監督と監督のもとへ行き、練習メニューを確認する役割があります。相手は総監督、緊張しました。しかし、「みんな体力がないから今日のアップはグラウンドを二周走ろう」「守備が弱いな、ケースソックスを多くやろう」などとチームの弱点に沿ったメニューを提案してくれました。そうやって総監督と話すうちに、総監督が本気でチームを思っていることに気づきました。同時に、自分を見つめ直しました。怠慢なプレーをしてしまったこと、礼儀がきちんとしていなかったこと、今まで強く指導されたことは、全て、私の未熟な部分を本気で気づかせる言葉だったのです。

総監督は、私がクラブを引退するときこんな言葉をかけてくださいました。

「今までご苦労さん。お前の優しさがチームを一つにまとめてくれて、ほんつとうに頼もしかった。」

正直驚きました。私は、チームで一番と言ってもよいほど総監督に指導されてきました。だから、引退するときには、「一切褒められないだろうな」と思っていたからです。でも、総監督は、私のことをよく見ていたからこそ、練習中には本気で怒ってくれて、引退するときには愛のある言葉をかけてくれたのだと思います。そんな総監督の言葉を、私は本当の意味で受け取れた気がします。

ここで一つ皆さんに質問をします。総監督のような、厳しく愛のある人を「老害」と呼べるでしょうか。私は絶対に呼べません。自分のことを思ってくれる人のことや、その想いを、一語で無視してしまう人がこれ以上に増えないことを望みます。もし気に入らないことがあっても、その言葉を立ち止まって考えられる人でありたいです。

みなさんは、相手の言葉を表面だけで受け取っていませんか。自分の未熟さや弱さを盾に、相手の言葉から逃げていませんか。言葉の内面を考えることで、本当のメッセージに気づけるはずで。年配だから、同世代だから、後輩だから……。世代や立場は関係なく、どんな思いから発せられた言葉か考えて受け取ってみませんか。自分を思ってくれる言葉、成長につながる言葉を受け取る人でありたいと私は思います。



優 良

違いが輝く社会に



米沢市立第一中学校 三年

和^わ地^ち葵^{あお}羽^は

テレビや新聞で、差別に関するニュースを見たことがあります。例えば、今年の一月に、日本在住の外国人が、日本の警察から差別的な扱いを受けたり、二年前には、アメリカのフロリダ州で、黒人を銃撃して死亡させたりなど、世界各地で人種差別が起こっていることを知りました。しかし、ニュースにはならないけれど、自分の身近な所にも、残念ながら差別があることを私は感じています。

私には、色々な病気と障害をもつダウン症の兄がいます。私は、部活動でうまくいかない時や悩んでいる時には、兄に話を聞いてもらいます。兄は、「大丈夫、大丈夫。」「葵羽ならできるよ!」こんな風にいつも励ましてくれます。ネガティブな言葉は一切言いません。誰よりも明るい兄に、私は助けられてばかりです。ま

た、家では、食事の後の片付けが兄の役割です。どんな時でも、その役割を欠かさず行います。私が食器を下げずにいると、そつと片づけてくれたりもします。

そんな兄と買い物をした時や一緒に出かけた時、歩いているだけなのに、すれ違う人から冷たい視線を感じたり笑われたりして、不快な気持ちになった経験がたくさんあります。見た目で、自分と違う部分を見つけ、軽蔑し、面白がっているのだと感じました。兄は「何で僕のこと見てるの?」と聞きます。家族は「何でだべな!」と答えます。兄も辛いと思いますが、私も自分のことのように辛いです。そして、あんなに優しく明るい兄を笑う人たちをいらだたく思います。たまたま兄は障害があるだけ。同じ人間なのに…。兄のことを何も知らない人に、兄を悪く思われたくない。そんな思いでいっぱいになります。

兄の通う養護学校について行った時、保護者の方から話を聞く機会がありました。

「学校の支援学級から養護学校に転入してきて、子どもが『やっ」と僕の居場所を見つけた』と喜んで学校に行く姿と、周りの目を気にせず、伸び伸びと自分らしく生活できる環境を見て、私も嬉しくなった。」こんなお話をお聞きし、色々と考えました。

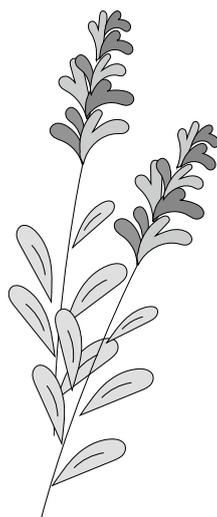
その子は、学校で自分の居場所がなくなるほど辛く、親もそのことを常に気にしていたのだと思います。学校で楽しくできる子もいれば、周りの子どもたちに認められず、学校に行きづらい子

どももいることを忘れてはなりません。

「ノーマライゼーション」という言葉があります。これは、高齢者や障がい者などを排除するのではなく、健常者と同等に当たり前に生活できるような社会こそが正常な社会であるという考え方です。初めてこの言葉を聞いた時、素晴らしい考えだと思いました。みんながこの考え方ができれば、社会がもっと明るいものになるのではないのでしょうか。この言葉の通りに、世界全体が変わってほしいと思います。

障がいを持っている人と持っていない人の違いは何だろうと思います。みんな一人の人間として頑張って毎日生きています。障がいは個性です。その人の持ち味です。排除するのではなく、共に生きるという社会に変えていかなければと思います。違いが輝く社会を作っていくことが大切なのではないでしょうか。

これから私は、人として、障がいの有無に関わらず、平等な社会が築けるように努力していきたくて考えています。誰に対しても優しい気持ちを持ち、自分との違いを排除するのではなく、その人の個性と認めて、たくさんの人と良い関係を築いていきたくてです。



優 良

私がうまれてきた意味



酒田市立東部中学校 三年

齊さい藤とう 茉夏花まなか

「命の重さ」。よく耳にするこの言葉。この言葉の意味について、あなたは考えたことがありますか？現代の進歩した医療のおかげで、命があるのは当然、そう感じられることが多い今でも、一万五千人の赤ちゃんが産声をあげることなく亡くなっています。生きていくこと、健康で五体満足であることは当たり前ではありません。妊娠や出産には多くのリスクが伴います。

私の家には、私の知らない誕生日が書かれたウェイトベアや、戒名が書いてある位牌があります。これらは、産まれてくることができずお腹の中で亡くなった私の兄のものです。兄は出産予定日を待つだけ、という九ヶ月の時にお腹の中で亡くなりました。それまでは元気に動いていたのに、ある日突然、胎動を感じなくなっただけです。母から兄の話聞いていたこともあり、私は幼

い頃から「命は尊いものである」と教えられて育ちました。母は私が生まれる前に、流産、そして死産を経験し、命を預かること、一人の命を育んでいくことが、いかに困難であるかを身をもって体験しました。「あの時…動きすぎたからだ。」「あの時…あんなことしなければ。」母は自分を責めて泣いてばかりいたそうです。周りからは「大丈夫、またできるから！」と、励ましのつもりで悪気のない言葉をかけられました。そのたびに母は「なんでそんなことを言うんだろう…あの子は…一人しかいないのに。」と深く心が傷ついたそうです。

母は、妊娠したら無事に子供が生まれてくるのが当たり前だと思っていました。現実はその簡単ではありませんでした。どうしても子供が欲しかった母は、不妊治療を試みました。その治療には激しい副作用を伴い、めまいや吐き気に苦しみ、途中で治療を断念したそうです。それでも希望を捨てなかった母ですが、私がお腹にいる時は、亡くなった兄の月齢を超えるまで、毎日不安でいっぱいだったそうです。

私は命の重さを軽視するような行動に心が痛みます。なぜなら、日々多くの命が、心ない人々の行動によって失われているからです。テレビや雑誌で虐待や育児放棄のニュースがいくらか報道されても、一向になくならないのが現実です。望まない妊娠をする人もいるかもしれませんが、世の中には子供を望んでも恵まれない人が沢山います。私たち一人ひとりが、奇跡の一人であるこ

とを理解しなければなりません。母が私を妊娠したときのことです。妊娠中ずっと不安な母に、ある看護師さんが

「大丈夫ですよ。一緒に乗り越えましょう。」と励ましてくれました。その言葉に母は救われたそうです。

私は今、看護師を目指しています。私が看護師を目指すきっかけとなったのは、母のこのような経験があったからです。

「辛い思いをする人を一人でも救いたい、私には何ができるんだろう。」

そう考えるようになりました。私もその看護師さんと同じように、患者さんの不安や苦しみに共感し、それを和らげる存在になりたいと思いました。

「兄がいるから、私がいる」。

新しい命をこの世に迎えることができる。そして今、私が生きているという奇跡。これを大切にし、人の気持ちに寄り添える看護師になりたいです。私がかまれてきた意味、それは命の尊さを理解し、伝え、それを守り続けることです。この決意を胸に、看護師として命を守るための道を歩んでいきたいと考えています。



あなたが笑顔になれる場所



山形市立第二中学校 三年

鈴木 玲奈

あなたにとって「居場所」とは何ですか。

リラックスできる場？それとも、大切な人と過ごす時間？

祖母の友人の家では、家族と暮らせない子どもを預かるボランティアをしています。そこに五年ほどいたのがKちゃんです。経済的な理由や虐待などで親と暮らせない子どもがいることは知っていました。「里親制度」、これが遠い世界のことではないというのは衝撃的な事実でした。「そんな子が、心を開いてくれるだろうか」と身構えていた私。ところが、予想とは裏腹に、飛び切りの笑顔で迎えてくれたKちゃん。なぜそんな笑顔ができるのでしょうか。

ある時、「これ、パパとママに買ってもらったの。」嬉しそうに駆け寄ってきました。「パパ？ママ？」ドキッとしました。触れ

てはいけなさと避けてきた言葉です。手にしていたのは大好きなキャラクターのコスプレセット。誕生日プレゼントです。「離れていても娘を思っているんだ」と温かく思うとともに、彼女の明るさやくつたくのなさの理由がわかった気がしました。

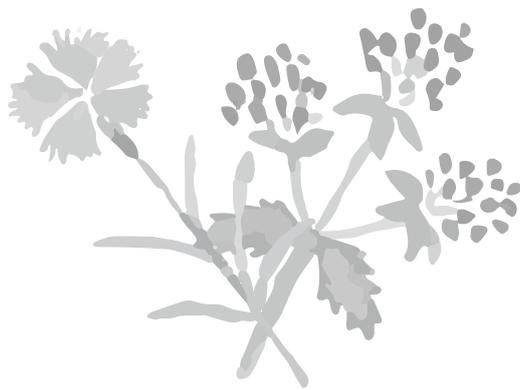
一緒に暮らせなくても、両親は、Kちゃんの心の居場所になっているのです。今暮らしている家もそうです。「ここが私の居場所、こっちも私の居場所」と思えるからこそほほえみを絶やさずにいられるのだと思いました。両親の代わりは誰にもできません。でも、楽しい時は一緒に笑い、寂しがっている時は抱きしめることはできます。つらい時はそれを分かち合いたいとも思いません。そのためには、相手をよく知り、相手の気持ちに寄り添い、何かあったら手をさしのべる心の用意をしておくことが大切なのです。

この夏、私は幼稚園のボランティアで、子どものための企画を考えることになりました。どうすれば喜んでもらえるか、気をつけるべき点は何か……。日頃やっている手遊びをアレンジしたり、みんなが大好きなアニメの体操を事前に練習し、一緒に踊ったりもしました。子どもたちの人懐っこさや楽しそうな姿に受け入れられているという喜びや充実感を味わうことができました。相手の思いを知るためには自分から一歩踏み出すこと、これらはKちゃんから学んだことです。

現代はオンラインで世界中の人とつながることができる時代です。一方で、地域のつながりや人間関係が希薄な社会とも言われ

ます。周りに目を向ければ、子育て、一人暮らしの高齢者、ヤングケアラーなど、困難を抱え、心のよりどころを見つけれない人達がいるのではないのでしょうか。一人が楽という人もいるかもしれませんが、それだけでは人は生きていくことはできません。人とのかわりの中で、自分が必要とされている、自分が愛されているという思いが、人を強く、優しくするのだと思います。

Kちゃんは、両親のもとへ帰る日、「もつと玲奈ちゃんと遊びたかったな」と言っていたそうです。私も彼女の居場所になれたのでしょうか。これからも「あなたの隣を歩いているよ」というメッセージを発信していける自分でありたいです。誰もが自分の居場所をもてる世の中を目指して。



地域を守るとは



山形市立高楯中学校 三年

佐藤 瑠海

「高瀬ってどこ？」

「高瀬」に引越すことが決まって、友達から返されたこの言葉に、僕は少し悲しくなりました。こんなに素敵なところなのに、知っている人が少なく驚きもしました。そして、もっと多くの人に「高瀬」について知ってもらいたいと思うようになったのです。

僕は神奈川県に生まれ、二歳のときに父が育った山形にUターンしてきました。そして、小学五年生のときに母の希望で「高瀬」へとやってきました。以前住んでいた学区は割と町場だったので、高瀬に初めて訪れたときには、その様子に目を見張ってしまいました。視界全体に広がる緑。どこを見渡しても山、山、山。耳を澄まさなくても聞こえてくる鳥や虫の声。「高瀬」の自然がすごく心地よく感じられました。

「高瀬」と言えば、紅花が有名でアニメ映画『おもひでぼろぼろ』の舞台にもなったところなんです。美しい田舎の原風景として広がる自然に主人公のタエ子さんが魅了されていくというものなんです。昨年、その映画で声優を務めた今井美樹さんが参加するイベントが、高楯中学校を会場に行われることになりました。地元特産の紅花を題材にした映画「紅花の守り人」の上映とトークなどが行われるのです。主催は「おらだですつべ」という地元の有志とても素敵なネーミングだと思いません。地元を思う熱い思いが感じられる名前から、その取り組みにわくわくしてきました。

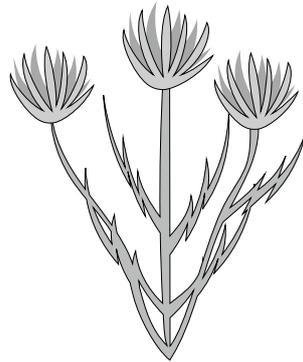
僕は、早速そのイベントにボランティアとして参加することになりました。中学二年生だった僕が、運営のスタッフです。来場されるお年寄りの方や大人の方、子どもたちの案内をします。地域のことを自分たちの手で支えていく、そんな思いでいたことを思い出します。そして、地域の人々と関わる中で、「高瀬」の良さを新たに実感しました。それは人々の温かさです。ボランティアをしていると来場される多くの人が丁寧に感謝の言葉を述べてくださいます。僕は、「高瀬」を盛り上げたくてこのイベントに参加したのに、逆に人々の温かな思いをいただくことができたのです。このことで高瀬のよさを伝えたいという思いはさらに強くなっていきました。

「高瀬」のシンボルの紅花。昔から高瀬では紅花栽培が盛んで、毎年花の盛りの七月には紅花まつりが行われてきました。それで

も、紅花農家は年々減少していき、今は紅花畑がほとんどありません。そこで、僕の家でも紅花栽培を始めることにしました。機械がなかったり、技術が十分でなかったりして、今年はずまく咲かせることができませんでした。しかし、ぜひ来年こそはと家族で準備を進めています。

室町時代に中近東からシルクロードを経て伝わり、戦時中は栽培が禁止される中、地域の人々によって守り継がれてきた農業遺産。一生懸命に栽培しても紅花からはほんとうにわずかな染料しか取れません。でも、昔から「高瀬」の人々は、手間を惜しまず紅花を一つ一つ手で摘んで、守り通してきたのです。地域を守ることは、伝統を守ること、文化を守ること。そして、そのための手間を惜しまぬこと。

今、少子高齢化が進んでいるからとか、地域財産の見直しとか、そういうことではありません。純粹にこの土地が好きだから、人々が好きだから、「おらだですっべ」のみんなのように手間を惜しまず、「高瀬」と紅花を守り継いでいきたいと思うのです。



追い続ける



河北町立河北中学校 三年

高木 咲楽

真っ白な雪原に、曇みかけるかのような猛吹雪。ホワイトアウトした視界から、一気に暗転。その瞬間、激痛と、悔しさで涙が止まりませんでした。

私は、父の影響で六歳の頃からスノーボードを始めました。当時は、「楽しさ」がやる気の原動力となっていました。本格的に競技としてのスノーボードにのめり込んでいったのは五年生の頃。テレビで「エックスゲームズ」を見たことがきっかけでした。「エックスゲームズ」とは、さまざまな種類のエクストリームスポーツを集めた、夏と冬、年二回開催されるスポーツ競技大会です。そこで滑る選手の姿は、理屈抜きに「カッコいい」と思わせてくれるものでした。その選手たちに憧れ、「エックスゲームズに出たい！」という夢を描くようになりました。その頃、父に言

われた忘れられない言葉があります。

「夢っていうのは、ああいうふうになれたらいいな、で、目標っていうのは、絶対にああいうふうになってやるんだ、なんだよ」その言葉を聞いたとき、心に響くような感覚を覚えました。その瞬間から、私の「夢」だと思っていたものが、「目標」へと変わったのです。

それからは、これまで見えなかったものがどんどん見えるようになりました。どうすれば「エックスゲームズ」に出られるのか、そのためには、どんなことを積み重ねなければならぬのか……。知れば知るほど、その道のりは長く険しいものだとわかりました。しかし、父のあの言葉が、私の背中を後押ししてくれました。

「エックスゲームズ」は招待制のため、多くの大会での実績が必要です。そこで、実績を積むために、私はたくさん練習して、大会でも結果を残し、国内強化指定選手に選ばれました。しかし、その代償にたくさん怪我もしました。中学一年生の冬、大会の際、悪天候の状況に対応できず転倒し、「右脛骨骨幹部骨折」という全治五ヶ月の大怪我を負いました。激痛と悔しさから、涙がこぼれました。救急車で病院に搬送され、入院・手術をしました。退院後も思うように体を動かすことができず、私は大会に復帰するイメージができなくなっていました。これまで必死に努力してつけてきた筋力も体力も落ち、途方に暮れる日々でした。それで

も、父のあの言葉を嘔みしめながら、諦めず苦しいリハビリにも耐えました。背後には、コーチからの日々のメール、そして、両親が毎日サポートしてくれた筋トレがありました。その結果、普通に生活できるくらいまで回復することができたのです。しかし、やはり大会に復帰するイメージは浮かびませんでした。

そんなとき、これまで一緒にがんばってきたスノーボード仲間の姿を目にしました。

「楽しそう」「自分も早くやりたい」「みんなと一緒に滑りたい」、身体の内側からふつふつと湧き上がる、スノーボードへの情熱が蘇るような気がしました。「目標」への新たな一步を踏み出した瞬間でした。

中学二年生。あの日の怪我から一年が経ち、私は大会のスタート台へ立ちました。「夢」が「目標」に変わったときから抱えてきた「緊張感と恐怖感」が、「高揚感と多幸感」に変わっていました。目の前に広がる雪原、周りから感じる視線、ウェアをかすめる風の音、ボードから伝わる雪の感触、まさに夢のような、ほんの一瞬の出来事を感じました。結果は優勝。表彰台の一番高いところで溢れた涙を、私は忘れることができません。そして、その涙の先で喜ぶ家族やコーチの姿も。たくさんの支えの中で、「目標」を追い続けられる自分がいることを肌で感じた瞬間でした。

これまで、何度も何度も高い壁に阻まれ、諦めかけた「目標」でもその度に、諦めず手を伸ばし続けられたのは、その「目標」

を達成するために、本気になって支えてくれる人の存在があったからです。私が負ったと感じていた代償は、これからの私にとってのかけがえのない財産になったのです。

これからも幾度となく、大きな壁に行く手を阻まれることがあると思います。でも、もうめげません。私の目標は、私だけの目標ではないことを知ったから。決して下や後ろを見ず、前だけを見て「目標」を追い続けます。



仲間とつくる



新庄市立萩野学園 九年

廣野 一花

「東北大会出場。」萩野学園吹奏楽部が向かい続けた大きな目標。先輩方の姿を見て、いつの間にか、私も「東北大会を目指す一人」になっていました。

七年生の時、先輩方にはよく注意されました。「返事は大きく」「しっかり挨拶」「自ら気づいて行動」。しかし、当時の私は自分の演奏のことで精一杯でした。なぜ先輩方がそこまで厳しく言うのがよく理解できないまま、必死で練習についていきました。

県大会直前、最後のホール練習の時の事でした。熱も咳も出る、コロナの検査を試みたら、「陽性。」私のコンクール出場は絶望的で、先輩方に対して申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。「自分のせいで東北大会を逃したら……」「大事なパートの部分があるのに……」不安は広がっていきます。「先輩から何か

言われたらどうしよう」「東北大会を逃したのは一花のせいだと言われるかもしれない」迎えた県大会当日、演奏する時間に合わせ、音源を聞きながら成功を願っていました。しかし、結果は銀賞。

コロナの休養期間が過ぎたの初めての部活。私は暗く不安な気持ちでいっぱいでした。どんなに責められても仕方がない、と思いつつながら音楽室に行くと、部長が私に言ったのです。「おかげり。」

と。それも、とても明るい笑顔で。救われた思いがしました。それでもやはり申し訳なく思っていると、

「一花のせいじゃないよ。」
仲間が声をかけてくれました。部内の温かい雰囲気。後に、私のパートの一部を先輩が吹いてくれたことを知りました。急な変更だったにもかかわらず、すぐに対応してくださり、その苦労を一言も言わなかった先輩。

私はその時、先輩から教えられたことの意味を初めて実感したのです。「人間性」。人としての大切な心を持つこと。私は今まで、自分のパートに責任を持つことが大事だと思っていました。しかし、それだけではなかったのです。吹奏楽の土台は「仲間と心をつなぎ、支え合いながら、一つのものをつくる」という意識があるのだと初めて理解しました。

その後、部長になった私は、「仲間と作る」部活動を意識しま

した。日々の声かけ、仲間とのコミュニケーション。ぶつかる時もありましたが、東北大会を目指す気持ちは変わりませんでした。心が最高潮に達していた県大会五日前。後輩がコロナに感染したことを知りました。それでも私たちはあきらめません。彼女と一緒に東北大会に出場することを目指し、欠けたパートを補えるよう、皆でカバーしていきました。音と音とのかけ合い、激しさと優しさが紡ぎ出すハーモニー。ひとりだけでは決して作れないもの。残された少ない時間の中で、「萩野学園の演奏」を作っていました。

私たちは、東北大会を逃しました。ですが、私が三年間やってきて初の金賞を手にすることができました。後悔はありません。仲間と一つの演奏を作れたことに誇りを持っています。

それと同時に、吹奏楽は社会の縮図だと感じました。一人一人に大切な役割があり、責任があります。でも、誰かがピンチに陥った時、それをカバーする「仲間」が必要です。心をつないで「私たちは仲間だよ」という意識を持つこと。皆で支え合いながら社会を作っていくことが大切です。

みなさん、一つの大きな輪の仲間として、一緒に社会をつくっていきませんか。そうすれば、きっと、すてきな社会になると思います。



家族の笑顔を守りたい―消防士を目指す私の想い―



南陽市立宮内中学校 三年

加藤朱葵

どうして消防署で働こうと思ったのですか。火を消すことは怖くないですか。

五月四日、私の地元南陽市宮内の秋葉山火災は、発生九日目にようやく鎮火しました。空を飛び回るヘリの音。暗闇の中に赤々と燃え上がる炎。そして、焦げ臭いにおい。何もできない私達にも強烈な印象、茶色く焼けた無残な山を残して。

あの人もこの消火活動に行ったのだろうか。昨年度職場体験でお会いした消防士さんの姿が浮かびました。研修途中も緊張している私達に温かい言葉をかけてくださいました。私にとって憧れの人です。

職場体験先は消防団に所属している叔父の影響で決めました。「自分達ができる範囲でできることをしたい。」という思いから

引き受けた叔父。いつもかっこいいと思っていました。では、職業にしている人はどんなことを考えて働いているのだろう。知りたいと思いました。

初日の午前中、放水訓練をさせていただきました。炎天下、全部で二十キロある防火衣は、重さに加えて中はサウナスーツの様です。立っているだけでも体力を奪われました。弱い水圧の放水でも、ホースを持つ腕が辛くなってきました。本当の火災が起きた際はもっと強い水圧で、火の大きさによってノズルの角度も変えるそうです。この他に、心肺蘇生や暗闇で出口を目指して歩く訓練などを行いました。途中、何度も出動の連絡が入ります。「○」で火災が発生。」その場に緊張が走り、対応してくださいっている方も席を立って確認に向かわれることもありました。

もし、炎が消えなかったら。救助者を救えなかったら。自分の身にも危険が及んだら。どうしよう…。危険に自ら身を投じなければならぬことや、人の命を預かるということがわかってくと「怖い」という感情がわきあがりました。

どうして消防署で働こうと思ったのですか。事前に考えていた質問でも、その時には全く違った重みで聞いていました。「人のため、人の助けになるためです。」

火を消すことは怖くないですか。

怖くないと思っているからこの仕事に就けているのだろう。と思う私に意外な言葉が返ってきました。「正直言うと怖いです。」

でも、被害を最小限に抑えて、住民の安全を守ることができたとき、この仕事をやっていて本当に良かったと思います。」

どんな人でも「怖い」と思わない人はいません。正直な言葉に私は安心しました。でも、怖さよりも「誰かを助けたい。守りたい。」という思いが勝っているから働ける。むしろ怖いと思えるから、真剣に物事に臨めるのだと分かりました。その誰かには友達、地域の人、私、そして私の家族も含まれます。

学校から帰って、茶の間で一緒にご飯を食べている時の顔。リラックスしてテレビを見ている顔。家庭菜園の野菜の出来栄を自慢したり協力して収穫したりしている時の顔。私も、この家族の笑顔を守りたい。私の家族と同じように、誰かの日常を私も守っていききたい。そう強く思うようになりました。

職場体験先の出会いは私に、消防士という将来の夢と、家族や誰かの日常・命を守りたいという強い願いを抱かせてくれました。これから体力・筋力をつけることや、夢を実現するための勉強をしないでいかなくはなりません。しかし、私は諦めずに努力し続けることができるはずです。なぜなら、家族の笑顔を守りたいという強い意志があるから。



『当たり前』の日々



酒田市立第二中学校 三年

佐藤千華

突然ですが、みなさんにとっての「当たり前前」の時間「当たり前前の生活」ってどんなことですか。「当たり前」という言葉には、言うまでもない当然のこと、何の変わりもないごく普通のこと、という意味があります。例えば「行ってきます。」と言ったら「いつてらっしゃい。」「ただいま。」と言ったら「おかえり。」そんな何気ない挨拶を家族と交わすことも、毎日の勉強、運動、そして自分の好きなことをして過ごす時間も私たちにとってはいつものことで、そのどれもが「当たり前」です。周りを見渡してみても「当たり前」は溢れかえっています。学校に行けば友達がいて、先生が授業をしてくれる。体調が悪くなればお医者さんが治してくれる。警察の方々がいとも私たちの生活を守ってくれている。そういったことも私たちにとっては日常で「当たり前」です。で

もそんな当たり前前なのが本当はすごくかけがえのない幸せなこととで、当たり前前ではないんです。そう私に教えてくれたのは家族でした。

私は今年の春、大切な人の死と向き合いました。父方の祖母、おばあちゃんです。おばあちゃんは私を、私たち孫みんなを、本当にかわいがってくれました。そんなおばあちゃんとのたわいもない思い出は数えきれないほどあります。部活の応援に来てくれたり、おいしいごはんを作っておすそわけしてくれたり。時には一緒に料理をしたり、お出かけをしたり。毎日会えるわけでもなかったし、おばあちゃんの家に行くことを面倒くさいと思ってしまった時もありました。それでも、おばあちゃんの元気な顔を見ると私も元気をもらえたしおばあちゃんと家族みんなで一緒に過ごす時間が私は大好きでした。だからこそ、おばあちゃんが病気でと知った時は心配と不安でいっぱいになりました。あんなに元気なおばあちゃんが病気？もう何日生きられるかもわからないような状態だなんて。信じられなかったし信じたくありませんでした。そういえばいつからおばあちゃんと会っていませんでした。もつとはやく気付けていれば何かおばあちゃんにしてあげられたんじゃないか。そう思えば思うほど自分が惨めで悲しさや不安が募っていくばかりでした。そして今年の春。「おばあちゃんが亡くなった。」と父から伝えられました。普段あまり見ることのない父や母の涙を見て、私も涙が止まりませんでした。何よ

り、あのおばあちゃんの明るい笑顔ももう見る事ができないなんて。泣いても泣いても涙が溢れてきて好きなことをする気にもなれなくて、心に穴があいたような感覚でした。

そんな私を一番近くで支えてくれたのは家族でした。父も母も姉もみんな辛くて苦しくて悲しいはずなのに、私の前では辛い顔をほとんど見せずにいつも通り接してくれました。どんなにつらいことがあってもたくさん泣いたら、また立ち上がって前に進むことができる。そう思わせてくれる家族が「当たり前」のように一番そばにいてくれる。それがどれほど幸せなことか改めて気づかされました。家族がそばにいてくれたから、私はおばあちゃんの死を乗り越えて今こうして前を向いて生きることができています。

失ってから気付くことってみなさんにもそれぞれあると思います。私はおばあちゃんの死と向き合ったことで、家族がいてくれる幸せや当たり前だと思っていた時間のかけがえのなさに改めて気づかされました。でも今は失ってからでは遅いと思うんです。私たちが毎日過ごしている「当たり前」の日々にはたくさん幸せがつまっています。当たり前前だと思っていた時間が本当はすぐかけがえのない幸せな時間で当たり前前ではないんです。たとえつらいことがあっても壁にぶつかったとしても決して全てを投げ出そうと思っただけじゃありません。その壁を乗り越えた先に当たり前前の毎日やたくさんさんの幸せがあると思います。そう信じて、一人でも

多くの人が幸せあふれる「当たり前」の毎日を思いっきり楽しむことを私は望んでいます。当たり前前の毎日に感謝を忘れずに。



フラワーマーチを超えて



最上町立最上中学校 三年

おお
大 場 柚 葵

私はこの春、大きな決断をしました。それは転籍です。転籍とは慣れ親しんだ特別支援学級を離れ、通常学級に戻るということです。少人数で、自分のペースを守りながら学習してきた私にとって、環境を変える、この決断はとても勇気のいるものでした。でも、不思議と不安はありませんでした。それは、これまでの私の生き方があったからだと思います。

私の両親は、ちよつと変わった人です。それは私の成功よりも、失敗を喜ぶ人だからです。このように言うと、まるで意地悪をされているように聞こえるかもしれませんが、そうではありません。「失敗することで学ぶことがたくさんある。失敗から人は成長するんだよ」両親がよく言う言葉です。そんな両親ですから成功した時に褒めてもらったことはありません。その代わり失敗し、悩

んでいる時には、とても喜んで褒めてくれます。そんな両親の影響もあり、私には一つの信念が芽生えました。それは「自分の想いを大切にする」ということです。

しかし、この信念を曲げてしまったことがあります。それは小学校五年生の時。通っていた富沢小学校が閉校となり、私たちは向町小学校へ通うことになりました。初めての友達、初めてのスクールバス。たくさんの「初めて」が重なり緊張が続きました。そんな毎日の中で知らず知らずのうちに消極的になっていました。

ある日、卒業式の分担を決めることになりました。私が狙うのはフラワーマーチ。ペーパーフラワーで作られたアーチを持ち卒業生を送り出す仕事です。でも、この係に就くことは、できませんでした。友達が希望していると知った私は、遠慮して立候補さえしなかったのです。

みなさんは、たったこれだけのことだと思うかもしれませんが、でも私には初めて感じる後悔という感情でした。自分のやりたい気持ちを自分が殺してしまった。そんな自分が嫌で嫌で仕方なくなりました。

卒業式。真新しい制服に身を包み、退場する先輩方を見て、私の心はどんよりと曇っていました。

私たち中学生にとって「自分の思い」を貫くことがいかに難しいか。通常学級に転籍した今、その難しさに直面しています。それは、あの時の「私」のように、言葉を飲み込む友達の姿を、幾

度となく目の当たりにしているからです。私たち中学生はいつも「一人になるかも」という不安と戦っています。「はじかれない」「浮かない」そのために周囲の様子をうかがい、自分が思っている事を言い出せないことがあります。SNSの浸透は、さらに私たちのコミュニケーションを難しくしています。「自分の意見を言わない」それが、身を守る手段なのです。でも、このままでよいのでしょうか。

私は、あのフラワアーチの時に感じた後悔から「やらない後悔よりやって後悔したほうがいい」という学びを得ました。だから運動会も生徒会選挙も、この主張大会も心惹かれるものには手をあげます。たとえ、みんなに選ばれなくても、それでもいい。私は私の気持ちを裏切らない。そんな自分に誇りを持っています。

転籍も私にとっては、その一つです。自分を取り巻く環境がどんなに変わっても、今度は負けません。あのフラワアーチで学んだことを、「自分の想いを大切にすること」を今度は最後まで貫きたい。だって、私の想いを守ってあげられるのは私だけなのです。ですから。皆さんも一度、考えてみませんか。あなたが、あなたらしく生きられるように。



部活動の大切さ



上山市立北中学校 二年

矢 吹 心 春

みなさんは、どのような理由で自分の入部する部活動を決めましたか。スポーツ選手に憧れているから、部活動見学で興味をもったから、親に勧められたからなど、様々な理由があると思います。北中では今年から、部活動に入部するのは希望者だけになりました。さらに、これからの部活動の時間を短縮したり、休日部活の回数を減らしたりと、地域移行を目指した取り組みをたくさんしています。しかし私は、部活動の地域移行には反対です。部活動とは、市中総体や新人戦、コンクールなどで良い結果を出すために練習するだけでなく、先輩や後輩との関係や、人との関わり方を学ぶためにあるものだと思います。仲間と一緒に喜びや悔しさを共有する楽しさは、部活動だからこそ学べる、大切なことだと思います。

私は吹奏楽部に所属しています。吹奏楽部に入部しようと思っ
たきっかけは、幼い頃から音楽が好きだったからです。部活動見
学の時の先輩方の合奏が印象に残り、入部を決めました。

しかし私は、自分より年上の人と話すとき、緊張してしまい、
言葉がうまくつまってしまいます。そのため、あまり先輩と関わるこ
とがなく、どう話していいかわからない時期がありました。入部し
て間もない頃は、一人で練習していることがありました。コン
クールで演奏する曲の練習をしていた時、なかなか高い音が出せ
ずに悩んでいました。そんな時に、悩む私に気付いた先輩が、声
をかけてくれました。

「高い音が出ないときは口の形を意識して、口角をあげて吹いて
みて。」
言われたとおりに吹いてみると、とても吹きやすく、高い音が上
手く出せるようになりました。そこから、先輩方と話すことが少
しずつ増えて、休憩中にちょっとした雑談をするようになりました。
た。お互いのことを話していくうちに、共通の趣味があることが
わかり、先輩との距離がぐっと縮まりました。するといつの間
に、先輩と話すときに緊張することがなくなっていき、コミュニ
ケーションがスムーズにできるようになりました。相手のことを
知ると、どんな考えをもった、どんな性格の人なのかを自然と理
解していきます。どんなことが好きで、どんなことが得意なのか、
どんなことが苦手なのか。信頼関係を築けたからこそわかる、お

互いの演奏の癖。部員のほとんどが中学校から楽器を始め、努力してきたからこそ、誰かが苦手を克服し、上手くできるようになると、自分のことのように嬉しくなります。そして、「自分も頑張ろう！」と前向きな気持ちになります。さらに切磋琢磨しあうことで、楽器同士の音やリズムの重なりが合った時、全体の音が良くなります。私は、あのパートとパートの音がびったり重なる瞬間が好きで、自分が演奏している時にきれいな音の重なりを感じる事ができると、みんなの心もびったり重なるようです。これで練習してきてよかったです。思えます。

しかし、今後部活動が地域に移行されると、これまで部活動で得られていた、様々な経験の機会は、全員に平等にもたらされるものではなくてしまいます。現在、上山市内で中学生でも入れる楽団のようなものはありません。もし、学校ではないところで吹奏楽をするならば、山形市まで行かなければならなりません。遠いところまで毎日のように通うのは、家庭の事情などで難しい人もいます。地域で好きな活動を選んでできるのはいいことですが、誰もが気軽に、平等に未経験のものに挑戦する機会があると言えるのでしょうか。部活動だからこそ、誰もが気軽に参加してみたいと思えるものではないでしょうか。

私は、同じ地域に生まれ、同じ学校に通い、未経験でも挑戦しようと思えば吹奏楽部を選び、そこで出会った仲間と創り上げる北中サウンドが大好きです。代々先輩方から受け継がれてきた北中吹奏

楽部。一人一人の音のつながりが、私を成長させてくれました。先輩や後輩、同級生など、たくさんの人達と心をつなげてくれる部活動は、これからも私たちにたくさんのお出逢いをもたらしてくれるでしょう。私は、これまで一緒に練習してきた仲間と、もっと良い演奏を創っていきます。



成功の第一歩



尾花沢市立尾花沢中学校 三年

三坂明日樂

「こんなはずでは——」

高らかになるホイッスル。令和五年六月、二年生として挑んだ地区中総体。尾花沢中学校サッカー部が全敗に終わった瞬間でした。

チームとしての完成度には納得がなかったはずでした。三年生の人数こそ少なかったものの、学年間の仲が良く雰囲気も良かったです。それなのに、全敗。まさかの結果に、チームの誰もが、涙で立ち上がることもできませんでした。「どうして……？」今思えば、この悔しさが、本当の「仲間」になるために必要なことに気付く、第一歩になったのだと思います。

一週間後。思わぬ出来事が転がり込みます。なんと、なでしこジャパンをワールドカップ優勝に導いた元日本

代表監督との練習会が決まったのです。何かが変わるなら。強く

なるための技術は何だつて盗もう。気合は十分に入っていました。

「負けた理由がわかった。」夢のような練習のあと、監督が口を開きました。どんな技術が、いや連携か。

「練習で使った道具、誰が片付けたと思う。」

え。誰もが固まりました。

「保護者の方が片付けてくれたよね。道具使った君たちが片付けないとダメだね。そういったピッチ外のこともしちんとできないと。」

確かにそうだ。でもそんなことが。今一つ要領を得ないまま、それでも全員が少しずつ言われたことを意識するようになりました。

変化を感じたのは、九月の新人総体が近づいてからでした。「そういうや、あいつ最近よく片付け手伝ってくれるな。」「あいつ、技術はそこそこだけど、積極的に声出すし周りがよく見えたプレーするよな。」「人間」としての良さが見えるようになってきたのです。その時、あの監督の言っていることが分かった気がしました。私たちは、「選手」である前に、一人の「人間」です。サッカーができるかどうかよりも、一歩前、まずは「人間」としての良さを見つめる。そして、その「良さ」を互いに認め合うことで、「友達」でも「チームメイト」でもない「仲間」として認め合う、心でつながったチームになれる。そのことを、あの監督は教えてく

れたのではないか。そう感じました。

今年開かれた、夏のパリオリンピックでも象徴的なシーンがありました。体操男子団体、エースの橋本選手は、あん馬の演技最中に落下するなど思うようにいかない様子でした。

それでも自分に託してくれる仲間を信じ、最後の鉄棒で素晴らしい結果を残しチームを金メダルに導きました。代表選手たちは、普段は別のチームに所属しているはずですが、それでも、同じ目標を目指す人間として認め合い、尊敬しあつたからこそ、橋本選手を信じ切ることができ、その結果日本に感動をもたらすことができたのではないのでしょうか。

結局、僕たちのサッカー部は、体操男子団体とは違い、最後の大会で優勝することはできませんでした。それでも、チームの誰もが、口々に言いました。

「このメンバードで戦えてよかった。」

プレーでうまくいかなくても互いを認め支えあえるチームになることができた。その充実感に満たされていました。

私たちは時々、皆で目標に向かって頑張っているのに、あまり気持ちが上がらない人の悪口を陰で言ったり、その人に強く当たったりしてしまうことがあります。そんな時、その人にはその人の良さがあることを是非思い出してほしいと思います。きっと何か理由があるはず、じゃあどうやったらみんな頑張れるのだろうか？そうやって前向きに考えられる人でありたいと、私は思い

ます。どんな目標であっても、どんな人がいても、互いの良さを認め、一人の「人間」として認めること。それがきつと、成功の第一歩なのです。



他者の心を思いやる



山形市立第七中学校 三年

三 瓶 生 悟

アンダー十二サッカー選手権。この大会で一位になれば全国大会に出場できる。僕が点を決めてチームに貢献する。

一回戦、二回戦、三回戦までは自分が点を決めて勝ち上がりました。

そして準決勝。一対一のまま、試合はPK戦へ。

経験したことの無い重圧の中、僕は外してしまったのです。息が苦しくなりました。涙がにじんできます。僕以外は全員シュートを決め、結局、僕のせいで負けました。

最後のシュートが決まった瞬間、相手チームは抱き合って喜んでいます。うつむいてしまった僕の耳に、チームメイトのすすり泣く声が聞こえてきました。悔しさと申し訳なさで、顔を上げることができません。すると、試合に出られなかったA君が、

「生悟は今まで声出して一生懸命やってたから。一番頑張ってきたから。『申し訳ない』って思うのは違うから。……泣くな。」と慰めてくれました。優しい言葉をかけられて涙が止まりませんでした。

チームの勝利に貢献しようと思っていたのに、キャプテンである僕が足を引っ張ってしまった。その日は泣きながら眠りました。朝起きて、今日が三位決定戦だと気がつきました。昨日の試合のことが頭から離れず、気持ちが沈んでいました。

いつもと様子の違う僕に、

「集中しろ。試合に出られない人の気持ちを考えろよ。」

と監督が怒鳴りました。

自分のことだけで、チームのことを考えなかった自分自身が情けなくなりました。

このことがあってから、仲間が受けやすいパスを出すのを心がけるようになりました。ピッチ全体の状況を声で伝えることも心がけています。全国大会には行けなかったけれど、チームのこと、スタメンになれない人のことを考えられるようになった、僕自身が成長できた、いい経験になったと思いました。

小学校卒業を機に、さらに強いクラブに入りました。これまで以上に声を出し、練習に打ち込みました。

しかし、チームのレベルが高く、スタメンに選ばれることが少なくなりました。

その日も僕はベンチです。「試合に出たい。試合に出たい。」に
らみつけるようにゲームを見ていた僕の前で、チームメイトがミ
スをしました。

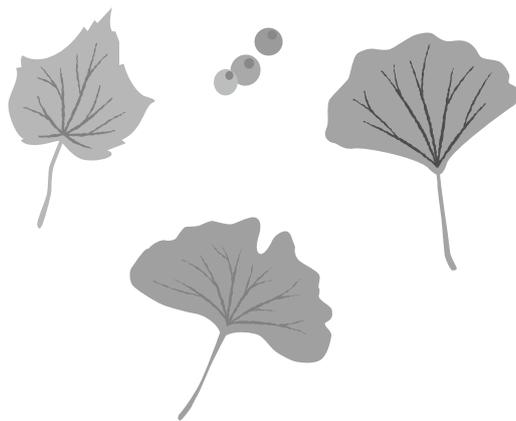
「何やってるんだ。……僕が出ていれば。」

心に浮かんだ自分の言葉にぎよつとしました。「『申し訳ない』っ
て思うのは違うから。……泣くな。」と慰めてくれたA君の優し
い言葉と、「試合に出られない人の気持ちを考えろよ。」という監
督の怒鳴り声がよみがえってきます。

試合に出ていない人の気持ちなんて、僕は全然わかっていな
かった。自分自身が成長したなんて、思い違いをしていた。A君
はどれほど試合に出たかっただろう。どれほどイライラしながら
試合を見ていたんだろう。

試合に出られない悔しさを抱えながら、それでも僕を気遣い、
励ましてくれたA君の心に僕はまだまだ届きません。相手の気持
ちを分かったつもりで行動し、知らずに傷つけていたかもしれま
せん。

「相手のことを考えて行動しろ」とよく言われます。しかし、
他人の気持ちを本当に理解することはとても難しいです。そし
て、相手の気持ちに寄り添って行動するのはもっと難しいです。
でも、僕は、相手の立場や思いを理解したい。他人に寄り添える
人になりたい。そう思っています。



文部科学大臣賞

大切な家族

千葉県長生村立長生中学校 一年 松原蒼天

「大事な話がある。」
小学二年生のある日、

「お母さんがすい臓がんになった。」
と、父から聞きました。「がんなんてきつと風邪みたいにすぐ治るだろう。」そのときはそう思っていました。でも、簡単には治らないこと、治すには抗がん剤をたくさん投与しなければならぬこと。それがわかったとき、幼かった僕は、不安な気持ちでいっぱいになりました。

長生村に引越したあと、病院が少し遠くなりましたが、それでも、一カ月に二、三回は病院に通っていました。

やがて、母はあまり歩けなくなりました。僕は母の体調がだんだんと、悪くなっていることに気づいていました。「どうしよう……。お母さん、お母さん……。」母が、自宅で治療をするようになってから、僕には口に出せなかったことがありました。「お母さん、もう少しで死んじゃうのかな……。」

五年生になった二月三日。三時間目。授業を受けていると、いきなり父に呼ばれました。「お母さんの前では、泣くなよ。」父からそう言われ、僕は、車の中で泣きました。

家に帰ると、母の様子が朝とは違っていました。僕は、母に元氣を出してもらおうと一生懸命声をかけました。母はもう何も喋りませんでした。僕は、母の近くで、看護師さんに母との思い出話をしました。思いつくかぎり。たくさん。父と兄が帰ってきたとき、母は、亡くなってしまいました。家族を一人亡くし、僕は、めっちゃくちゃ泣きました。十一時十五分でした。

母が亡くなった後、十一時十五分をさした時計が偶然目に入る度に、「お母さん。何もできなくてごめんさい。」と涙があふれそうになりました。また、月命日の三日を迎えると、感謝の気持ちを直接母に伝えたくなくて、悲しくなりました。がんの話聞いたとき。家族の話聞いたとき。何度も何度も胸が締めつけられるように苦しくなりました。

中学に入って、クラス全員で作文を書くことになりました。僕は初めて、母のことを書いてみようと思いました。僕は、文章を書くことが苦手でしたが、なぜかスラスラと言葉が出てきました。作文発表が終わったあと、不思議と心が軽くなったことに気が付きました。これまでフタをしてきた思いを文章にし、気持ちの整理ができたのかもしれない。

「あんなに真面目な蒼天は初めてみた。僕も家族を大事にしようと本気で思う。」

友達からは、こう言われました。今まで、人からふれられることがなかった話題。当然、自分から口に出すことも避けていました。でも、言葉に表したことで、あるとき自分がどう感じていたのか、何が苦しかったのか、少しだけわかったような気がしました。そしてこの話を聞いて、「家族を大切にしたい。」と考える人が一人でも多く増えるなら、僕が感じた思いをできるだけ多くの人に伝えていきたいと思いました。言葉を使うのは、僕もあまり得意ではありません。しかし、心の中にある思いを「言葉」にすることで、何かが変わるのかもしれないと、今は思っています。

家族との会話。いつもの食卓。何気なく過ぎていく毎日は、皆さんが思っている以上に幸せなことです。今、僕の話の最後まで聞いてくださった皆さん。目の前にいる大切な家族とたくさん話をしてください。そして、恥ずかしがらずに感謝の気持ちを伝えてください。伝えられるときに。自分の「言葉」で。当たり前前の時間が、いつか大切な思い出となるように。

国立青少年教育振興機構理事長賞

ついでにしているだけ

熊本県熊本市立鹿南中学校 三年 友枝紗寧

「ついでにしているだけだよ」一年半程前に他界した大好きだった祖父の口癖でした。

私の家の前に古びた駅があります。周りに店が並んでいるわけではなく、普段は人通りの少ない駅です。しかし、通勤・通学の時間になると、高校生や会社勤めの人で駅はにぎやかになります。駐車場や駐輪場も車や自転車がいっぱいです。にぎやかなのはいいのですが、人が増えるとそれに合わせてごみも増えます。祖父は毎日のように散歩のついでに駅に行き、人が捨てたごみを拾っていました。私はそんな祖父に「どうしてごみ拾いをするの」と聞くと、祖父はいつも「ついでにしているだけだよ」と笑顔で答えました。

ある朝、登校途中の道端に食べ終えたガムが捨てられていました。私は「自分が食べたものくらい自分で捨てればいいのに」と嫌悪感を持ちながら学校へ行きました。夕方になり学校から帰ると、スコップを持ち、しゃがんだ祖父が道にこびりついたガムを取っていました。その姿を見た時、私は正直、祖父がそこまでする必要はないと思い、「どうしてそこまでするの」と祖父に聞きました。祖父はいつものように「ゴミを拾っていたから、そのついでにしているだけだよ」と答えました。祖父は多くのことを語る人ではありませんでしたが、毎日のように散歩のついでにごみ拾いや地域の清掃をする人でした。まだ幼かった私ですが、そんな祖父が大好きで、かっこよく、その姿を見るたびに心が温かくなっていました。

一年ほど前のある日、母の仕事を手伝うために母の職場に出かけた時のことです。母の職場の近くには神社があり、そこにサイクリングに来た男性がお参りをしていました。男性はお参りを済ませると、近くにあった竹ぼうきを持ち、落ち葉を掃き始めました。その光景を目にした時、私は大好きだった祖父の姿が思い浮

かびました。いつからか、ごみ拾いをする祖父を当たり前のように見ていた私は、懐かしさで心が温かくなりました。

このことをきっかけに、私は「ついでに自分にできることはなにか」「自分が何かをすることで人の役に立てれば」ということを考えるようになりました。トイレに行く時はついでに自分が使ったスリッパ以外も並べる、自分の机や棚を整理する時は欠席している友達の名や棚も整理するなど、祖父が言っていた「ついでに」ということを心がけて生活しています。「ついでに」ということは、正直面倒くさいと感じてしまうこともあります。しかし、そんな時はかっこいい祖父の姿を思い出すようにしています。

最後の中体連大会を間近に控えた6月、私は柔道の練習中に受け身をうまく取れず、左ひじを痛めてしまいました。病院での診断は全治3か月の大けがでした。もう試合に出られない、仲間たちと柔道をするのではないとわかった瞬間、涙が止まりませんでした。学校で落ち込む私をみんなが励ましてくれたり、荷物を持ってくれたりしました。けがをしてみても、これまで、私は「ついでに」という気持ちで人のために自分ができることを考えてきました。このけがを通して、私も周りの友達から支えられ、周りの人から「ついでに」いろんなことをしてもらっていることに気づき、してもらった嬉しさとありがたさを感じるようになりました。中体連大会には出ることはできませんでしたが、人のやさしさと思いやりに触れ、その大切さに気づく機会になりました。

祖父は他界し、今では会うこともできません。しかし、私の心の中にはいつも祖父がいます。祖父は「ついでにしているだけ」といつも言っていました。その根底にあるものは周りの人や自分が生活している地域への思いやりと優しさでした。自分の行動で周りの人たちが気持ちよく生活でき、生活する地域がきれいになるならば、そのことがうれしいと思っていたのだと思います。

私の周りには私にできることがたくさんあります。私も祖父のように自分の行動で人や地域を幸せにできる人になりたいです。「ついでにしているだけ」という気持ちで。

審査委員会委員長賞

「じゃない方」になって気づいたこと

愛知県西尾市立鶴城中学校 三年 村木

あらた

「新のお弁当、美味しそうだね」

部活動の試合や校外学習などがあると、弁当が必要になる。食事中、弁当をのぞいてきた友達にそう言われることが度々あった。その時、私は父の顔を思い浮かべ、少し誇らしい気持ちになり、感謝する。

父は弁当が必要だとわかると、数日前から

「おかずはどうしたらいいんだ」

と、頭を悩ませているが、当日になるといつも早起きして美味しい弁当を作ってくれる。皆さんは、弁当を作ってくれるお父さんと聞くと、どんなイメージを抱くだろう。

「男性なのに、料理ができてすごいな」

「なんでお母さんが作らないの」

と疑問に思う人もいるだろうか。その疑問が湧くの中には、きつと父親には「仕事をしてお金を稼ぐ一家の大黒柱」とか、「家事は母親が中心で父親はあまり手を出さない」などのイメージがあるからだろう。私の父も、以前はそんな「世間一般の父親像」とそう違いはなく、はじめから料理をしていたわけではなかった。では、なぜ料理をするようになったのか。それは、必要に迫られたからだ。

私が小学六年生になってすぐの四月、母は病気で天国へと旅立った。残された家族で生きていくために、父は仕事と家事をこなし、私たち兄弟三人を育てている。いわゆる「シングルファザー」の一人だ。母の一件から、私たちは、世間にありふれたごく普通の家族から、普通「じゃない方」の家族へと、オセロがひっくり返るようにならされたのだ。

世間一般で見れば、ひとり親世帯が少数派で、その中でも父子家庭は母子家庭より圧倒的に少ない。ひとり親になる理由は、離婚や死別などさまざまだ。それにもかかわらず母子家庭が多いのは、おそらく子育てをする上で母親の方がもともと関わりが深

く、家事をしていたという理由からだろう。

日頃、私は家族を支える父の姿を見ている。そんな父に改めてシングルファザーでどんなことに困っているかを聞いてみると、「ひとり親世帯に対する支援は、就労や所得に制限がある手当てなどに限られている。実際は経済面以外にも、家事や仕事の子どもの世話、習い事の送迎など、助けを借りたいことはたくさんあるのに、そういった支援は少ないな」と話してくれた。こうした背景には、同じひとり親でも、男性は女性と比べ経済的な変化が少なく、それほど困っていないと思われている点があるからかもしれない。

私も、自分が今の状況になって、初めて父子家庭について考えるようになった。もし家庭環境に何も変化が起きなかったのであれば、父子家庭について何も考えることはなく、不自由のない毎日過ごしていたと思う。では今後、自分が当事者であるかにかにかかわらず、さまざまな社会問題に対し、どのように目を向けていけばよいだろう。当事者ではないからと言って無関心でいたなら少数派にいる人々の思いは目の目を見ることなく、消えていってしまうだろう。自分の生きていく社会をそんな社会にしないため、二つのことを心がけたい。

一つ目は、無意識のうち世間の常識と思い込んでいた見方や、多数派の意見を一方的に押し付けることのないようにすることだ。そのような「アンコンシャスバイアス」と言われる意識が、性別や年齢、家庭や社会での役割に働いている場面があるかもしれない。できる限り先入観をもたず、実態に目を向け相手の立場に立つてものごとを考えることができる想像力を養っていききたい。二つ目は、たとえ自分が「じゃない方」の少数派になることがあっても、自分の意見を言うべき時にしっかりと伝える、勇気をもった人間になりたいということだ。

このように、社会のさまざまな事象や立場に関心をもち、適切に自分の考えを主張していくことが、社会全体をよりよい方向へと変えていく力になると、私は信じている。

私は今日も父が献立を考え、父が作った料理を食べる。今はまだこれは一般的「じゃない方」と思われるかもしれない。しかしいつか、そうした少数派の立場の人たちも、少数派「じゃない方」の人たちも誰もが、住みやすい社会が来ることを願っている。

第六十三回山形県少年の主張大会開催要綱

一 名 称

「第六十三回山形県少年の主張大会」 ～いま伝えたい私のメッセージ～

二 趣 旨

少子高齢化、国際化、情報化の急激な進展等、わが国の社会や国際的な環境が大きく変化する現代社会にあって、次代を担う子どもたちは、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められています。

そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などとともに、物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらう力などを身につけることが大切です。

本県の中学生にとって、これらのことの契機となり、健全育成の一助となることを願って、山形県少年の主張大会を開催するものであります。

三 主 催 等

(一) 主 催

ア 公益社団法人山形県防犯協会連合会（以下「県防連」という。）

イ 山形県青少年育成県民会議（以下「県民会議」という。）

ウ 株式会社山形新聞社

エ 山形放送株式会社

オ 独立行政法人国立青少年教育振興機構（以下「青少年教育振興機構」という。）

(二) 後 援

ア 山形県

イ 山形県教育委員会

ウ 山形県警察

エ 山形県少年補導員連絡会

オ 山形県PTA連合会

四 内 容

(一) 発表内容

次のような内容で、心からの思いや考えたこと、感銘を受けたことなどを、少年らしい自由でユニークな感想や意見として飾り気のない言葉でまとめたもので、未発表・自作のものに限りません。

なお、商業的な固有名詞の使用は極力避けるようにしてください。

(悪い例…○○県にある○○旅館 良い例…○○県にある旅館)

ア 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。

イ 家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友達との関わりなど。

ウ テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など。

(二) 出場資格

県内の中学生（特別支援学校中等部を含む。）

(三) 発表時間

一人五分間（四〇〇字原稿用紙四枚程度）

五 県 大 会

(一) 日 時

令和六年九月二十一日（土）午後一時から

(二) 場 所

山形市平久保一〇〇番地 山形国際交流プラザ「山形ビッグウイング」大会議室

(三) 出 場 者

各ブロック大会において県大会出場権を獲得した 十五名

(四) 表 彰

発表終了後、直ちに開催する審査会において、

・最優秀 一名

・優秀 二名

- ・優良 二名
- ・奨励賞 十名

を選出し、表彰するものとします。

六 予選会

(一) 地区大会

ア 開催期日

地区大会は、各地区防犯協会（連合会）が、ブロック大会の日程に合わせて開催するものとします。
イ ブロック大会出場者の選出

各地区大会におけるブロック大会出場者数は、次のとおりとします。

- ① 山形地区（山形地区防犯協会連合会） 八名
- ② 米沢地区（米沢市防犯協会、川西町防犯協会連合会） 六名
- ③ 最上地区（最上地区防犯協会連合会）、
酒田地区（酒田地区防犯協会連合会）、
鶴岡地区（鶴岡市防犯協会、三川町防犯協会）、 各五名
- ④ 寒河江地区（寒河江・西村山地区防犯協会連合会）、
村山地区（村山地区防犯協会連合会） 各四名
- ⑤ 長井地区（長井地区防犯協会連合会）、
南陽地区（南陽地区防犯協会連合会） 各三名
- ⑥ 上山地区（上山市防犯協会）、天童地区（天童市防犯協会）、
尾花沢地区（尾花沢・大石田地区防犯協会連合会）、
庄内地区（庄内町防犯協会） 各二名
- ⑦ 小国地区（小国町防犯協会） 一名

計十四地区 五十二名

ウ 地区大会出場者数の報告

県民会議において、地区大会出場者の総数を全国大会主催者に報告することから、県民会議の示した様式により、地区大会出場者数を県民会議まで報告するものとします。

(二) ブロック大会

ア 開催期日

ブロック大会は、県大会の開催に合わせて山形新聞（支）社が山形、最北、庄内、置賜の四ブロックにおいて、令和六年九月十三日（金）まで開催するものとします。

イ 県大会出場者選出

各ブロック大会における県大会出場者数は、次のとおりとします。

- ① 山形ブロック 六名
 - ② 最北ブロック 三名
 - ③ 庄内ブロック 三名
 - ④ 置賜ブロック 三名
- 計四ブロック 十五名

ウ 県大会出場者報告

県大会出場者については、ブロック大会開催地の防犯協会（連合会）が学校名、学年、氏名、性別、論題について、決定次第又は令和六年九月十三日（金）まで県防連に報告するものとします。

七 その他

(一) 大会開催系統図

別紙一（添付省略）のとおりです。

(二) 県大会の審査基準

ア 配点区分

- 論旨 六十点
 - 表現力 三十点
 - 態度 十点
- 計百点

イ 発表時間

① 発表時間 一人五分間とします。

※第一声から計時し、五分を経過した時点で一度ベルを鳴らし、以後、三十秒経過毎にベルを鳴らします。

② 減点 三十秒を経過する毎に三点減点とし、合計点から減点します。(五分二十九秒までは減点対象とならない。)

【減点例】 審査員五名が、それぞれ百点と評価したが、発表者が発表時間を一分オーバーした場合は、その採取点数は、百点×五名＝五百点↓獲得点数六百点－減点六點＝最終点数四九四点となります。

③ 発表時間の計測 集計係が行い、審査会に報告します。

(三) 全国大会への推薦

県大会の最優秀者については、青少年教育振興機構が主催する少年の主張全国大会に県代表として推薦されます。(全国大会には、北海道・東北ブロックから二名が選抜され出場)

(四) 留意事項

ア 県大会出場者の作品(提出した原稿を含む)の著作権は、主催者に帰属するものとします。

イ 発表者(作者)は、著作権及び著作物について、別紙二「承諾書」(添付省略)を作成の上、地区大会で提出することとします。

地区大会で提出された承諾書は、提出を受けた地区大会主催者が、ブロック大会及び県大会の主催者に送付し、引き継ぐこととします。

ウ 県大会当日のプログラム、大会記録集、主催者のホームページ、機関誌(紙)、新聞等に、本人の写真、氏名、学校名等を掲載します。

エ 出場者の発表内容が大会要綱の規定に違反していることが判明した場合には、その時点で失格とします。
他機関が主催する発表大会やコンクール等に出場する場合にも、本大会の作品を重複して使用しないよう注意が必要となります。

エ ブロック大会及び県大会における旅費については、主催者側が支給することとします。

大会次第

審査委員

司会

山形放送株式会社アナウンサー

佐塚 崇 恭

公益社団法人山形県防犯協会連合会会長

中山 眞 一

一 開 会

山形県教育委員会教育次長

加藤 淳 一

二 あ い さ つ

山形県青少年育成県民会議会会長

柿崎 則 夫

山形県しあわせ子育て応援部長

西澤 恵 子

山形県警察本部生活安全部長

岡崎 浩 隆

三 審査委員等紹介

株式会社山形新聞社論説委員長

鈴木 雅 史

四 主張発表

主催者代表

五 審査結果発表

山形県青少年育成県民会議会長

柿崎 則 夫

六 表 彰

公益社団法人山形県防犯協会連合会会長

中山 眞 一

七 講 評

審査委員長

中山 眞 一

株式会社山形新聞社取締役編集局長

峯田 益 宏

八 閉 会

山形放送株式会社報道制作局長

三浦 重 行

県大会歴代入賞者名簿

第1回	昭和37年	優勝	米沢市立第四中学校	2年	黒崎礼子	
第2回	昭和38年	〃	宮内町立漆山中学校	3年	高橋千香子	
第3回	昭和39年	〃	新庄市立日新中学校	2年	高山秀家	
第4回	昭和40年	〃	尾花沢市立尾花沢中学校	2年	高山修	
第5回	昭和41年	〃	新庄市立日新中学校	3年	富樫幸子	
第6回	昭和42年	第1位	新庄市立明倫中学校	3年	伊藤俊一	
		第2位	山形市立第二中学校	3年	佐藤順英	
			天童市立第一中学校	1年	高橋敦子	
		第3位	新庄市立日新中学校	3年	佐藤寿美江	
			酒田市立第五中学校	1年	高橋稔	
三川町立三川中学校	3年		榎木美津子			
第7回	昭和43年	第1位	三川町立三川中学校	3年	大場静	
		第2位	白鷹町立荒砥中学校	3年	細矢正子	
			遊佐町立藤崎中学校	3年	本間佳子	
		第3位	米沢市立第六中学校	1年	高橋信子	
			温海町立福栄中学校	3年	秋野公子	
尾花沢市立尾花沢中学校	2年		星川匡			
第8回	昭和44年	第1部	第1位	小国町立白沼中学校	3年	斎藤公子
			第2位	河北町立谷地中学校	2年	市真知子
			第3位	中山町立中山中学校	2年	原田富夫
		第2部	第1位	日大山形高等学校	2年	那須祐子
			第2位	酒田女子高等学校	2年	畑中千賀子
			第3位	県立長井高等学校	2年	渡部良子
第9回	昭和45年	第1部	第1位	小国町立小国中学校	3年	佐々木佳代子
			第2位	寒河江市立柴橋中学校	3年	梅津美津子
			第3位	余目町立和合中学校	3年	佐藤篤
		第2部	第1位	日大山形高等学校	2年	中島正男
			第2位	市立酒田中央高等学校	3年	佐藤まみ
			第3位	県立寒河江高等学校	1年	安孫子英明
第10回	昭和46年	第1部	第1位	鶴岡市立鶴岡第一中学校	3年	鈴木真紀子
			第2位	天童市立第一中学校	3年	渡辺裕子
			第3位	余目町立余目中学校	2年	佐藤孝男
		第2部	第1位	日大山形高等学校	1年	井上君江
			第2位	県立米沢興譲館高等学校定時制	3年	山口英正
			第3位	県立米沢東高等学校	3年	高橋朋子
第11回	昭和47年	第1部	第1位	白鷹町立東中学校鷹山校舎	3年	横山ちか子
			第2位	小国町立北部中学校	3年	仁科幸子
			第3位	上山市立宮川中学校	1年	中島徹
		第2部	第1位	県立山形北高等学校	2年	土田美保子
			第2位	県立米沢興譲館高等学校	2年	細谷利之
			第3位	県立酒田西高等学校	2年	阿部けい子

第12回	昭和48年	第1部	第1位	山形大学附属中学校	3年	遠藤 恵理子
			第2位	寒河江市立陵東中学校	3年	清野 憲隆
			第3位	小国町立北部中学校	3年	山口 春美
		第2部	第1位	酒田女子高等学校	3年	逸見 孝子
			第2位	県立米沢東高等学校	1年	須藤 睦子
			第3位	県立小国高等学校	1年	仁科 幸子
第13回	昭和49年	第1部	第1位	山形大学附属中学校	3年	秋保 いずみ
			第2位	白鷹町立東中学校	3年	大木 なみ
			第3位	温海町立念珠関中学校	3年	本間 寛
		第2部	第1位	県立米沢東高等学校	2年	須藤 睦子
			第2位	県立尾花沢高等学校	2年	今埜 良子
			第3位	日大山形高等学校	1年	斉藤 和久
第14回	昭和50年	第1部	第1位	新庄市立新庄中学校	3年	中島 郁子
			第2位	上山市立山元中学校	2年	長橋 智子
			第3位	南陽市立赤湯中学校	3年	須藤 尚俊
		第2部	第1位	県立小国高等学校	3年	仁科 幸子
			第2位	県立米沢東高等学校	3年	須藤 睦子
			第3位	日大山形高等学校	2年	斉藤 和久
第15回	昭和51年	第1部	第1位	新庄市立日新中学校	3年	有村 恵
			第2位	山形市立第二中学校	1年	丹波 功
			第3位	寒河江市立陵南中学校	3年	宇井 洋子
		第2部	第1位	鶴岡商業高等学校	2年	斎藤 和美
			第2位	県立米沢商業高等学校定時制	4年	山口 秀悦
			第3位	鶴岡商業高等学校	3年	熊谷 百合子
第16回	昭和52年	第1部	第1位	酒田市立平田中学校	3年	土門 康藏
			第2位	山形大学附属中学校	3年	石井 淳
			第3位	白鷹町立東中学校	3年	大宮 直子
		第2部	第1位	県立山形北高等学校	2年	大沢 玲子
			第2位	米沢女子高等学校	2年	田中 真由美
			第3位	県立山形北高等学校	3年	橋本 峰子
第17回	昭和53年	第1部	第1位	酒田市立第一中学校	2年	長谷山 さつき
			第2位	寒河江市立陵南中学校	1年	水多 淳子
			第3位	山形大学附属中学校	3年	早坂 詩以子
		第2部	第1位	県立山形工業高等学校	1年	児玉 昭浩
			第2位	県立米沢商業高等学校	1年	角屋 正幸
			第3位	鶴商学園高等学校	1年	牧山 広幸
第18回	昭和54年	第1部	第1位	山形市立第一中学校	3年	木川 美佐子
			第2位	鶴岡市立鶴岡第三中学校	3年	門脇 恵一
			第3位	山形市立金井中学校	3年	長岡 美德
		第2部	第1位	鶴商学園高等学校	3年	平野 葉子
			第2位	東海山形高等学校	2年	鐘水 俊一
			第3位	竹田女子高等学校	2年	東海林 明美

第19回	昭和55年	第1部	第1位	白鷹町立西中学校	3年	長谷部 淳子
			第2位	中山町立中山中学校	2年	伊賀 明子
			第3位	天童市立第一中学校	1年	阿部 千裕
		第2部	第1位	県立谷地高等学校	3年	山崎 淳子
			第2位	県立上山高等学校	2年	大沢 泰史
			第3位	鶴商学園高等学校	2年	石田 千歳
第20回	昭和56年	第1部	第1位	天童市立第一中学校	2年	阿部 千裕
			第2位	新庄市立日新中学校	3年	松田 秀雄
			第3位	山形市立第四中学校	3年	片山 由美子
		第2部	第1位	県立谷地高等学校	3年	奥山 正子
			第2位	県立長井高等学校	1年	高梨 圭子
			第3位	県立谷地高等学校	3年	大沼 弥生
第21回	昭和57年	第1部	第1位	山形市立第七中学校	3年	丹野 由美子
			第2位	河北町立河北中学校	1年	真田 健二
			第3位	寒河江市立陵東中学校	3年	奥山 留美
		第2部	第1位	鶴商学園高等学校	2年	鈴木 直身
			第2位	県立余目高等学校	3年	菅原 由紀
			第3位	県立谷地高等学校	3年	松田 真奈美
第22回	昭和58年	第1部	第1位	長井市立長井南中学校	3年	堀 米 恵
			第2位	寒河江市立陵東中学校	3年	佐藤 幸人
			第3位	山形市立蔵王第二中学校	2年	鈴木 健彦
		第2部	第1位	鶴商学園高等学校	3年	鈴木 直身
			第2位	県立余目高等学校	3年	秋庭 光幸
			第3位	県立谷地高等学校	3年	工藤 美佳
第23回	昭和59年	第1部	最優秀	山形市立第一中学校	3年	松田 佐世子
			優秀	県立上山養護学校	3年	斎藤 新一
			優良	藤島町立藤島中学校	3年	大沼 智井
		第2部	最優秀	米沢中央高等学校	3年	田村 拓美
			優秀	県立酒田工業高等学校	3年	仲鉢 正徳
			優良	山形城北女子高等学校	3年	佐藤 浩子
第24回	昭和60年	第1部	最優秀	山形市立第一中学校	3年	横尾 登茂美
			優秀	大江町立大江中学校	3年	滝川 佳代
			優良	鶴岡市立鶴岡第三中学校	3年	斎藤 和美
		第2部	最優秀	県立山形西高等学校	1年	安藤 詠子
			優秀	県立山形西高等学校	1年	山口 喜代
			優良	県立酒田工業高等学校	2年	信坂 守
第25回	昭和61年	第1部	最優秀	長井市立長井北中学校	3年	佐藤 真理
			優秀	山形市立第六中学校	3年	長谷川 英理
			優良	県立山形盲学校中学部	3年	長岡 恵美
		第2部	最優秀	県立高畠高等学校	2年	嶋倉 玲子
			優秀	山形電波工業高等学校	3年	柴崎 敦
			優良	県立山形工業高等学校	3年	伊藤 栄一

第26回	昭和62年	第1部	最優秀	新庄市立八向中学校	3年	伊藤志穂
			優秀	南陽市立赤湯中学校	1年	後藤洋
			優良	小国町立白沼中学校	3年	斎藤美香
		第2部	最優秀	県立長井工業高等学校	2年	鈴木浩二
			優秀	県立山形工業高等学校	3年	安達千鶴子
			優良	県立山形西高等学校	2年	滝川佳代
第27回	昭和63年	第1部	最優秀	平田町立飛鳥中学校	3年	富樫美起
			優秀	西川町立東部中学校	2年	塩野円香
			優良	鶴岡市立加茂中学校	2年	本間絵理菜
		第2部	最優秀	県立村山農業高等学校	3年	阿部伊津美
			優秀	県立山形西高等学校	3年	山口知子
			優良	県立荒砥高等学校	1年	工藤恭子
第28回	平成元年	第1部	最優秀	鶴岡市立鶴岡第四中学校	3年	阿部幸
			優秀	長井市立長井北中学校	2年	田中由紀枝
			優良	山形市立第一中学校	3年	吉住聡子
		第2部	最優秀	県立山形西高等学校	3年	沼沢美和
			優秀	県立米沢興譲館高等学校	2年	安藤正之
			優良	県立宮内高等学校	3年	川井純子
第29回	平成2年	第1部	最優秀	小国町立白沼中学校	3年	井上勝裕
			優秀	長井市立長井北中学校	2年	芳賀明子
			優良	山形市立第四中学校	1年	神尾菜摘
		第2部	最優秀	県立赤湯園芸高等学校	2年	木村明美
			優秀	県立山形西高等学校	2年	高橋小直
			優良	県立楯岡高等学校	2年	宮腰衣麻
第30回	平成3年	第1部	最優秀	山形大学附属中学校	3年	佐藤郁子
			優秀	米沢市立第一中学校	3年	本田綾子
			優良	山形市立第五中学校	2年	藤澤美知男
		第2部	最優秀	県立山形西高等学校	1年	飯島香織
			優秀	県立荒砥高等学校	1年	加藤智穂
			優良	県立北村山高等学校	2年	東海林里見
第31回	平成4年	第1部	最優秀	山形大学附属中学校	3年	伊豆田あかり
			優秀	南陽市立沖郷中学校	3年	鈴木隆広
			優良	鶴岡市立鶴岡第一中学校	2年	太田希
		第2部	最優秀	県立山形西高等学校	1年	斉藤香奈
			優秀	山本学園高等学校	3年	今野千裕
			優良	県立高島高等学校	2年	荒澤優子
第32回	平成5年	第1部	最優秀	新庄市立新庄中学校	3年	中山功一朗
			優秀	山形市立第四中学校	3年	古畑夏実
			優良	米沢市立第一中学校	3年	鈴木奈穂
		第2部	最優秀	県立東根工業高等学校	1年	柏倉範美
			優秀	米沢中央高等学校	3年	長沢昌幸
			優良	羽黒高等学校	1年	後藤佳奈子

第33回	平成6年	第1部	最優秀	寒河江市立陵南中学校	3年	今田夕紀
			優秀	山形市立第三中学校	3年	安藤龍朗
			優良	羽黒町立羽黒中学校	3年	庄司牧子
		第2部	最優秀	県立東根工業高等学校	2年	黒田愛
			優秀	県立山形西高等学校	1年	沼沢忍
第34回	平成7年	第1部	優良	米沢中央高等学校	2年	佐藤俊治
			最優秀	鶴岡市立鶴岡第三中学校	3年	富樫明香
			優秀	村山市立楯岡中学校	3年	嘉規聡子
		第2部	優良	西川町立西部中学校	3年	飯野恵
			最優秀	県立山形西高等学校	1年	吉田菜穂
第35回	平成8年	第1部	優秀	米沢女子高等学校	3年	中村清美
			優良	県立北村山高等学校	3年	森智子
			最優秀	鶴岡市立鶴岡第一中学校	1年	蔡達
		第2部	優良	大江町立大江中学校	3年	清水志乃
			最優秀	真室川町及位中学校	3年	高橋優子
第36回	平成9年	第1部	優良	真室川町及位中学校	3年	高橋優子
			最優秀	県立山形西高等学校	1年	戸田みやび
			優良	山本学園高等学校	3年	畑中美香
		第2部	優良	県立南陽高等学校	3年	沼沢美奈穂
			最優秀	白鷹町立西中学校	3年	小林佳世子
第37回	平成10年	第1部	優良	真室川町真室川中学校	3年	高橋佳奈
			優良	酒田市立第六中学校	3年	粕谷美紗
			最優秀	県立新庄農業高等学校	3年	菅原純一
		第2部	優良	県立山形北高等学校	1年	西塚亮子
			優良	羽黒高等学校	3年	半田梨恵
第38回	平成11年	第1部	最優秀	長井市立長井南中学校	3年	鈴木智恵
			優良	鶴岡市立鶴岡第三中学校	3年	板垣しおり
			優良	天童市立第二中学校	3年	渡邊駿介
		第2部	最優秀	米沢女子高等学校	3年	原田真理子
			優良	県立山形西高等学校	2年	渡辺薫
第39回	平成12年	第1部	最優秀	長井市立長井南中学校	3年	高橋清香
			優良	山形大学附属中学校	3年	相澤久範
			優良	鶴岡市立豊浦中学校	3年	佐藤郁恵
		第2部	最優秀	羽黒高等学校	3年	庄司沙耶花
			優良	県立置賜農業高等学校	3年	齋藤千佳

第39回	平成12年	第1部	最優秀	飯豊町立中津川中学校	3年	安部 香
			優秀	酒田市立第六中学校	3年	奥山 範
			優秀	米沢市立第三中学校	3年	梅津 方媛
			優良	寒河江市立陵東中学校	3年	信夫 直子
			優良	東根市立神町中学校	2年	菅野 洋佑
		第2部	最優秀	県立庄内農業高等学校	3年	川口 拓生
			優秀	県立置賜農業高等学校	2年	佐藤 容功
			優良	県立山形盲学校高等部	2年	高橋 郁子
第40回	平成13年	第1部	最優秀	山形大学附属中学校	3年	栗田 真由子
			優秀	酒田市立第三中学校	2年	佐藤 耕太郎
			優秀	鶴岡市立鶴岡第三中学校	3年	五十嵐 恵
			優良	鶴岡市立鶴岡第一中学校	2年	伊藤 瀬里花
			優良	大江町立大江中学校	3年	古郡 岬
		第2部	最優秀	県立北村山高等学校	1年	佐藤 陽子
			優秀	県立寒河江高等学校	2年	若松 千都
			優良	県立新庄農業高等学校	1年	高橋 佐裕美
第41回	平成14年	第1部	最優秀	長井市立長井南中学校	3年	鈴木 政輝
			優秀	長井市立長井南中学校	3年	佐藤 理紗
			優秀	新庄市立新庄中学校	3年	川田 愛子
			優良	鶴岡市立鶴岡第三中学校	2年	今野 育
			優良	村山市立西郷中学校	3年	原田 康平
		第2部	最優秀	県立山形西高等学校	2年	加藤 道子
			優秀	県立置賜農業高等学校	3年	鈴木 徳仁
			優良	県立北村山高等学校	2年	本間 大亮
第42回	平成15年		最優秀	山形市立蔵王第一中学校	3年	澤田 充史
			優秀	新庄市立萩野中学校	3年	柿崎 春香
			優秀	南陽市立宮内中学校	3年	恩地 裕子
			優良	長井市立長井南中学校	3年	高橋 桃恵
			優良	山形市立第五中学校	3年	英 棕好
第43回	平成16年		最優秀	飯豊町立飯豊中学校	3年	土田 直也
			優秀	長井市立長井北中学校	3年	高橋 梓
			優秀	鶴岡市立鶴岡第四中学校	3年	宅井 奈々
			優良	大石田町立亀井田中学校	3年	青木 真吾
			優良	長井市立長井南中学校	3年	大泉 佳菜
第44回	平成17年		最優秀	南陽市立宮内中学校	3年	平 暁祐
			優秀	南陽市立赤湯中学校	3年	皆川 亜由美
			優秀	県立山形盲学校中等部	2年	大泉 桃子
			優良	新庄市立新庄中学校	3年	渡邊 絵理
			優良	鶴岡市立鶴岡第三中学校	2年	佐藤 有沙

第 45 回	平成18年	最優秀	米沢市立第七中学校	3年	山下 美紗妃
		優 秀	鶴岡市立鶴岡第五中学校	3年	熊 田 明日香
		優 秀	舟形町立舟形中学校	3年	叶 内 百 合
		優 良	河北町立河北中学校	3年	福 田 雅
		優 良	県立山形盲学校中学部	2年	山 田 真 央
第 46 回	平成19年	最優秀	米沢市立南原中学校	3年	小 池 李里香
		優 秀	村山市立楯岡中学校	3年	矢 萩 莉 沙
		優 秀	山形市立第一中学校	3年	高 橋 栞 里
		優 良	白鷹町立東中学校	3年	新 宮 若 菜
		優 良	川西町立第一中学校	2年	高 瀬 葉 月
第 47 回	平成20年	最優秀	長井市立長井北中学校	3年	竹 田 涼 夏
		優 秀	金山町立金山中学校	2年	星 川 彩
		優 秀	高畠町立第二中学校	3年	木 村 翔
		優 良	天童市立第二中学校	3年	横 沢 利 奈
		優 良	山形市立蔵王第一中学校	3年	奥 野 雅 也
第 48 回	平成21年	最優秀	鶴岡市立朝日中学校	3年	有 賀 この美
		優 秀	寒河江市立陵西中学校	3年	菊 池 烈 斗
		優 秀	米沢市立第二中学校	3年	山 田 瑞 基
		優 良	長井市立長井南中学校	3年	江 口 征 志
		優 良	酒田市立飛鳥中学校	3年	石 川 真 理
第 49 回	平成22年	最優秀	山形市立第四中学校	3年	上 路 紗 代
		優 秀	鶴岡市立朝日中学校	3年	小 野 寺 萌
		優 秀	米沢市立第二中学校	3年	油 井 美 帆
		優 良	上山市立宮川中学校	3年	齋 藤 孝 幸
		優 良	山形市立第二中学校	3年	堀 偉 久 磨
第 50 回	平成23年	最優秀	新庄市立日新中学校	3年	門 脇 真 実
		優 秀	鶴岡市立鶴岡第二中学校	3年	河 野 美 波
		優 秀	飯豊町立中津川中学校	2年	高 橋 未 咲
		優 良	小国町立小国中学校	3年	蛭 田 大 和
		優 良	新庄市立新庄中学校	3年	真 木 碧 惟
		特 別	鶴岡市立藤島中学校	3年	鈴 木 莉 央
第 51 回	平成24年	最優秀	米沢市立第二中学校	3年	我 妻 愛里紗
		優 秀	山形市立第二中学校	3年	峯 田 香 穂
		優 秀	戸沢村立戸沢中学校	3年	水 口 日 和
		優 良	山辺町山辺中学校	3年	松 田 菜 美
		優 良	酒田市立第六中学校	3年	阿 部 海 里
第 52 回	平成25年	最優秀	南陽市立沖郷中学校	3年	島 崎 有 紀
		優 秀	山形市立第六中学校	3年	阿 部 沙 紀
		優 秀	東根市立神町中学校	3年	村 山 美 空
		優 良	山形大学附属中学校	3年	八 卷 裕 希
		優 良	小国町立小国中学校	3年	小 池 直 道

第53回	平成26年	最優秀	酒田市立第六中学校	3年	菅原 すみれ
		優秀	山形市立金井中学校	3年	土谷 美有
		優秀	朝日町立朝日中学校	3年	菊地 美桜
		優良	尾花沢市立尾花沢中学校	3年	加藤 想
		優良	真室川町立真室川中学校	3年	佐藤 瑠南
第54回	平成27年	最優秀	天童市立第三中学校	1年	土門 一葉
		優秀	村山市立楯岡中学校	3年	菅野 朋夏
		優秀	山形市立第十中学校	3年	佐藤 麗水
		優良	寒河江市立陵南中学校	3年	佐藤ナターリア
		優良	山形大学附属中学校	3年	小野 結衣
第55回	平成28年	最優秀	南陽市立沖郷中学校	3年	青野 瑞希
		優秀	南陽市立宮内中学校	3年	上野 望
		優秀	白鷹町立白鷹中学校	3年	今野 璃夏子
		優良	真室川町立真室川中学校	3年	五十嵐 愛
		優良	上山市立南中学校	3年	井上 彩音
第56回	平成29年	最優秀	遊佐町立遊佐中学校	3年	齋藤 愛彩
		優秀	山形市立第一中学校	3年	樋口 葉音
		優秀	南陽市立沖郷中学校	3年	齋藤 夢叶
		優良	尾花沢市立尾花沢中学校	3年	渋谷 空
		優良	米沢市立第四中学校	3年	阿部 夏奈
第57回	平成30年	最優秀	天童市立第三中学校	3年	岩淵 礼姫
		優秀	新庄市立新庄中学校	3年	高橋 直人
		優秀	西川町立西川中学校	2年	西塔 萌花
		優良	東根市立神町中学校	3年	松田 爽来
		優良	酒田市立第一中学校	3年	菅原 さくら
第58回	令和元年	最優秀	山形県立山形聾学校中学部	3年	佐藤 美華
		優秀	新庄市立明倫中学校	3年	坂本 和香奈
		優秀	戸沢村立戸沢中学校	3年	荒木 ひよこ
		優良	南陽市立沖郷中学校	3年	伊藤 陽葵
		優良	西川町立西川中学校	3年	阿部 祥子
第59回	令和2年	新型コロナウイルス感染症対策のため県大会中止			
第60回	令和3年	最優秀	小国町立叶水中学校	3年	野崎 さよ子
		優秀	最上町立最上中学校	3年	菅 紗羽
		優秀	長井市立長井南中学校	3年	鈴木 みどり
		優良	寒河江市立陵南中学校	3年	早坂 緋芽乃
		優良	村山市立葉山中学校	3年	黒沼 愛佳
第61回	令和4年	最優秀	鶴岡市立榊引中学校	3年	渡部 香子
		優秀	鶴岡市立鶴岡第二中学校	3年	石川 芽衣
		優秀	新庄市立新庄中学校	3年	佐藤 亜海
		優良	中山町立中山中学校	3年	澁谷 美保
		優良	河北町立河北中学校	3年	藤野 琴磨

第 62 回	令和5年	最優秀	酒田市立第一中学校	3年	富 樫 蒼 汰
		優 秀	米沢市立第三中学校	3年	袖 山 紗 希
		優 秀	天童市立第四中学校	3年	國 井 心 羽
		優 良	酒田市立第三中学校	3年	齋 藤 真 緒
		優 良	酒田市立東部中学校	2年	齊 藤 茉夏花
第 63 回	令和6年	最優秀	白鷹町立白鷹中学校	3年	井 上 愛 奈
		優 秀	庄内町立立川中学校	3年	齋 藤 未 旺
		優 秀	山形大学附属中学校	3年	神 尾 航 成
		優 良	米沢市立第一中学校	3年	和 地 葵 羽
		優 良	酒田市立東部中学校	3年	齊 藤 茉夏花

全国大会歴代入賞者名簿

年 度	受 賞 名	学校名	学年	氏 名	演 題
昭和61	特 別 賞	長井北中	3年	佐 藤 真 理	一通の手紙から
昭和63	特 別 奨 励 賞	飛 鳥 中	3年	富 樫 美 起	国際社会への目覚め
平成元	文 部 大 臣 賞	鶴岡四中	3年	阿 部 幸	生きているということ
平成3	審査委員会特別賞	山大付中	3年	佐 藤 郁 子	今、私たちが街をつくる
平成4	審査委員会特別賞	山大付中	3年	伊豆田 あかり	心と外見
平成10	内閣総理大臣賞	長井南中	3年	鈴 木 智 恵	ピナアダム、私の道しるべとして
平成15	内閣総理大臣賞	蔵王一中	3年	澤 田 充 史	僕の見たヒロシマ
平成17	審査委員会特別賞	宮 内 中	3年	平 曉 祐	「とんと昔」を未来へ
平成26	文部科学大臣賞	酒田六中	3年	菅 原 すみれ	唄い継ぐ想い
平成28	奨 励 賞	沖 郷 中	3年	青 野 瑞 希	「伝える」ことで、つながる心
平成30	内閣総理大臣賞	天童三中	3年	岩 淵 礼 姫	人生を駆け抜ける
令和 3	奨 励 賞	叶 水 中	3年	野 崎 さよ子	一步踏み出す
令和 5	文部科学大臣賞	酒田一中	3年	富 樫 蒼 汰	大切な家族
令和 6	審査委員会委員長賞	白 鷹 中	3年	井 上 愛 奈	障害を乗り越えて

防犯広報作品コンクール入賞者名簿

◎防犯ポスター

第一部（小学生の部）

最優秀	鶴岡市立朝陽第三小学校	六年	成田樹莉
優秀	白鷹町立荒砥小学校	六年	土屋珠乃
優秀	米沢市立広幡小学校	一年	金谷桃果
優良	中山町立豊田小学校	五年	伊藤翠
優良	天童市立天童南部小学校	四年	吉田結菜
佳作	寒河江市立寒河江中部小学校	五年	正野晃都
佳作	南陽市立沖郷小学校	六年	添川朔愛

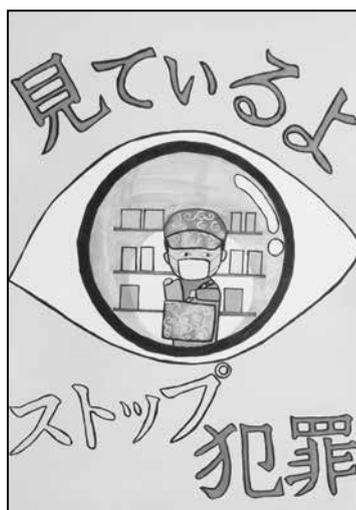
第二部（中学生の部）

最優秀	寒河江市立陵南中学校	二年	伊藤夏帆
優秀	天童市立第二中学校	三年	鹿間結花
優秀	米沢市立第一中学校	二年	小原琉維
優良	東根市立大富中学校	一年	石井蘭華
優良	白鷹町立白鷹中学校	一年	鈴木柚衣
佳作	山形市立蔵王第一中学校	三年	金子紗衣
佳作	最上町立最上中学校	一年	佐藤結愛
優良	山形県立左沢高等学校	一年	佐藤調

(最優秀作品)



第二・三部（中学生・高校生の部）



第一部（小学生の部）

◎防犯標語

第一部（小学生の部）

最優秀 のらないで 知らない人の くちぐるま
 優秀 突然の 見知らぬ電話 ご用心
 優良 あいさつは 笑顔にさせる おまじない
 優良 そのサイト ほんとかどうか うたがって
 優良 あいさつで ひろがるころろ ちいきのわ
 佳作 パトロール 地いきのみなさん ありがとう
 佳作 ありがとう ちいきの人たち 見まもる目

長井市立平野小学校 五年 井上未梨
 村山市立楯岡小学校 六年 森谷祐亘
 小国町立小国小学校 五年 伊藤咲喜
 尾花沢市立福原小学校 六年 菅野結愛
 高畠町立屋代小学校 一年 松田蓮叶
 高畠町立屋代小学校 四年 板谷翔真
 山形市立本沢小学校 二年 横山悠真

第二部（中学生の部）

最優秀 オレだオレ オレってだれだよ 名をなのれ！
 優秀 戻れない 悪ふざけでも 罪は罪
 優秀 万引きで 自分の未来も 盗まれる
 優良 忍びよる うまい話に 黒い影
 優良 あやしいぞ そのクリックは 大丈夫？

酒田市立第六中学校 一年 黒田芽愛
 上山市立南中学校 二年 井川琴心
 新庄市立日新中学校 二年 古瀬葵衣
 庄内町立余目中学校 三年 阿部日菜子
 庄内町立余目中学校 一年 佐藤藍香

第三部（高校生の部）

最優秀 薬物は 君の心を 壊すもの
 優秀 面白い？ 画像は二度と 消えないよ
 優秀 もう成人？ いやいやお酒は 二十才から
 優良 犯罪を 見て見ぬふりも 同罪だ
 優良 稼げるよ 悪魔の言葉 闇バイト

山形県立新庄神室産業高等学校真室川校 一年 阿部幸翔
 山形県立新庄神室産業高等学校 二年 高橋李夢
 山形県立酒田西高等学校（定時制） 四年 今野知広
 日本大学山形高等学校 二年 渡辺優実子
 米沢中央高等学校 三年 飯澤拓矢

令和六年十一月

「第六十三回山形県少年の主張大会」記録集

（いま伝えたい私のメッセージ）

編集・発行

公益社団法人山形県防犯協会連合会

（山形県警察本部内）

〒九九〇一〇〇二三

山形市松波二丁目八番一号

電話

〇二三一六二四一三八〇〇

山形県青少年育成県民会議

（山形県多様性・女性若者活躍課内）

〒九九〇一八五七〇

山形市松波二丁目八番一号

電話

〇二三一六三〇一二七二七